

アジア歴史資料センター

陸軍 副官ヨリ陸軍兵器本部次長へ通牒

別紙要領ニ依リ南方軍ニ對シ航空機關銃現地修理班派遣
方取計ハレ度依命通牒ス

陸軍密第五〇二號

昭和七年九月廿四日

陸軍 副官ヨリ陸軍航空本部次長へ通牒

別紙要領ニ依リ南方軍ニ對シ陸軍兵器本部ヨリテ航空機關銃
現地修理班ヲ派遣セシラルニ付依命通牒ス

追テ同班ノ人員及携行資材ノ空輸方取計ハレ度申添フ

陸軍密第五〇二號

昭和七年九月廿四日

陸軍 副官ヨリ陸軍被服本廠長へ通牒

別紙要領ニ依リ南方軍航空機關銃現地修理班派遣セ
シメラルニ付爾班對被服陸軍兵器本部ニ對シ被服貸與
方取計ハレ度依命通牒ス

陸軍密第五〇二號

昭和七年九月廿四日

兵部總監部參謀長ヨリ南方軍總參謀長へ通牒
 別紙要領ニ依リ陸軍兵器本部ヲシテ航空機関銃現地修理班
 ヲ派遣セシメラルハニ付通牒ス

兵部乙第一八五號

昭和七年四月廿四日

寫齊

陸軍

別紙

南方軍

航空機関銃現地修理班派遣要領

一、目的

南方軍管下部隊、試製十二七機関銃ノ現地修理ヲ

實施スルニ在リ

二、派遣期間

昭和十七年二月下旬以降約一ヶ月

三、編成

將

一名

囑

校

一名

工

員

三名

四、派遣間南方軍司令官ノ区處ヲ受クルモノトス

五、携行スヘキ部品材料ハ兵器本部長適宜準備携行セシムルモノトス

トス

六、人員及資材ノ輸送ハ航空本部ノ補給用飛行機ニ依ルモノトス

七、工員ノ所要被服ハ陸軍被服本廠ヨリ貸與スルモノトス

八、所要経費

臨時軍事費トシ航空本部ノ支辨トス



0023

秘

別冊添付

陸兵作秘第六六三〇號

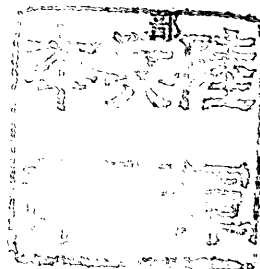
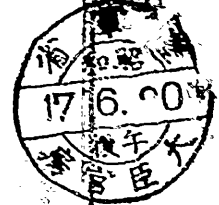
ホ一〇三現地修理報告送付ノ件通牒

昭和十七年六月十九日

陸軍兵器本

陸軍省御中

昭和十七年二月二十一日附陸亞密第五〇二號ニ依リ南方ニ派遣セラレタル「ホ一〇三」現地修理班ノ實施報告別冊ノ通送付ス



(日本標準規格B-5)

陸軍省

別冊

0024



自昭和十七年三月二十一日
至全 年五月十日

於南方軍管下部隊

十二耗七固定機関砲現地修理総合報告

陸軍兵技少佐

眞木文三郎

十二号七固定機関砲現地修理綜合報告

一人員並行動概要

一 任務

南方軍管下部隊ノ十二号七固定機関砲現地修理ヲ実施スルニ依リ

二 期間

由派遣期間ハ現地到着後約一ヶ月

由実施期間ハ現地内 五十五日

三 作業人員並其ノ状態

由編成

班長 陸軍兵校少佐 真木文三郎 班員囑託 岡戸政吉

同員 井上三喜雄 同任本昌信 同大澤之雄

四 健康状態

暑熱甚シヨウ飲料水良好ナラサル爲 當初ハ一般ニ下痢症状ヲ呈シタルモ氣候ニ慣熟スルに従ヒ健康状態ヲ恢復シ概シ四週ニ作業

携行部品並燃料

ヲ進捗セシ得タリシガ、氷哇方面以後ハ氣候良好ナルニモ不拘班貢ハ疲勞ヲ爲發熱シ交互ニ若干休業セリ、工員ニ付スル兵站宿舍ノ給養ハ充分良好ト云ヒ難ク、長期ノ作業ニハ適セザル如シ、幸ヒシテ「マラヤ」ハ殆ンド流行シアラザレドモ地南ニ於テ蚊張、設備ナキ如キ其ノ一例ナリ

携行部品並材料ハ別表第二乃至第五ノ如シ

此等資材・工員糧ハ全部消費シ部品中使用セラルモハ現地ニ希望ニ依リ部隊ニ委譲セリ

行動ノ概要

三月二日 隊長出張シ兵器本部航空本部並陸軍省ニ於テ夫所
要ノ指示ヲ受シ別紙第五ノ如シ 別紙第一及第五ハ其ノ前連絡事
項ナリ、更ニ先ニ別紙第六ノ如ク航空技術研ニ所ヨリ連絡アリ、ハ
航空本部ニ於テ出発地ハ「各務原」ト決定シ塔架飛行機並ニ出発
日次ニ關シテハ各務原輸送部支部ト直接連絡スベキ旨指示アリ

三月五日 撥買の岐阜ニ集結し、輸送部支部ニ連絡せしニ
 出発ハ七日 携行部品ハ別送トナリ 翌六日別送部品ハ別表
 第六の依頼シ三梯野ニ荷渡ス 出発ハ更ニ延期シ
 三月八日補給用飛行機(九式重爆撃機ニ型)ニ搭乗 各務ヲ飛
 場ヲ出発ス 機体圓窓ノ現地修理式ヲ班ト共ニ三機編隊ナリ
 途中 太刀洗上海 屏東・三亞ニ各宿泊シ三月廿日西貢ニ到
 着ス 太刀洗ニハ八日間待機滞在セリ 別送部品ハ先ニ西
 貢ニ到着シ直ニ第二十五航空分廠ニ於テ受領ス
 西貢到着後直ニ總軍司令部ニ出頭シ到着電文ヲ航本・兵本
 名造宛差信シ(別紙第七)航空兵器部ニ於テ第五並ニ第三飛行集團
 於テ航空機同銃砲ヲ概テ其ノ順序ニ修理ヲ實施スベキ旨ニ
 處テ受テ 要修理兵器ノ現況等細部事項ハ總ベテ不明ニシテ
 光ツ・パールモンニ在ル第五飛行集團兵器部ニ就テ詳細ニ
 打合セテ實施シ作業ハ取テ敢 設備ノ關係上バンコク郊外

第十九野戰航空修理廠ニ於テ實施スルヲ可トスベレトナリ
 班長 飛行機ニ依リ「ハールメン」ニ直行シ、班員ハ陸路バンコック
 ニ前進セシムルトシ夫ニ處置ヲ講ス 翌二十一日別紙おハノ
 如キ命令ヲ受領シ第二十航空分隊長ノ指揮下ニ入ル
 同日 航空技術部ニ於テ技術 野田大佐ト俱ニ別紙第九ノ如ク修
 理ニ関スル技術的事項ニ関シ協議ス、關係者ニ就テ部隊並ニ
 兵器ノ現況ヲ推察シ別紙第十ノ如キ概略ノ作業計畫ヲ立案ス
 此處ニ「ランパン」及「ハールメン」ハ戰闘機關係飛行戰隊所在予定地ナ
 残西貢トアルハ先ニ航空兵器部ニ於テ要修理兵器ヲ西貢ニ
 後送スベキ旨第三飛行集團ニ通牒セル由ニ就キ計畫ス
 二十二日班員國戸鶴祐以下四名及航空技術部中村軍曹ヲ
 盤谷ニ先登セシム、西貢「クニン」間ハ「トラク」ニ依リ爾後ハ軍用列車
 ニ依ル班長ハ更ニ航空兵器部・航空技術部ト打合ヲ行ヒタル
 結果第五集團方面ハ班長自ラ連絡ヲ取リ第三集團方面ハ

航空兵器部ニ於テ連絡シ其ノ結果ハ萬ノ九野戦航空廠ニ於テ傳
達スルトス。班長ハ作業態度上ナリヲ兵器一地集結ニ度旨希望セリ
班長ハ二十五日旅客機ニ依リ西貢ヲ出発シハルモノニ向テ機ノ都合依
リ途中盤巻一泊トナリ直ニ目的地ニ在リ第九野戦航空廠ニ出頭セ
ルニ宛テ班員モ到着シ出會フ。班員ハ陸路三日半ヲ要シタルモノ
第五飛行集團ハ既ニ「ラングーン」ニ前進セル由ナルヲ以テ班員ハ航
空廠保管兵器ノ修理作業ヲ命ジ班長ハ翌二十六日「ラングーン」ニ
飛行ス。「ラングーン」ニ於テ第五集團兵器部ト次々打合せス。
〔在「チエニマイ」(多)〕飛行第六十四戰隊ハ航空廠作業終了後直ニ出奔
スル事。(一)在「レグ」(ビルマ)獨立飛行第四十七中隊ハ兵器部ニ於テ
調査・上道牒スルト但シ「レグ」ニ於テ作業ヲ要スル場合塔象飛
行機ヲ提供ス。ニオ七日旅客機ニ依リ盤巻ニ歸リ班員ト合シ航
空廠ニ於テ作業ヲ実施ス。修理セル「ホーロ三八」獨立飛行四十七中隊
所管ニシテ計九機外ニ機関統若干アリ此間移動修理班ヨリ

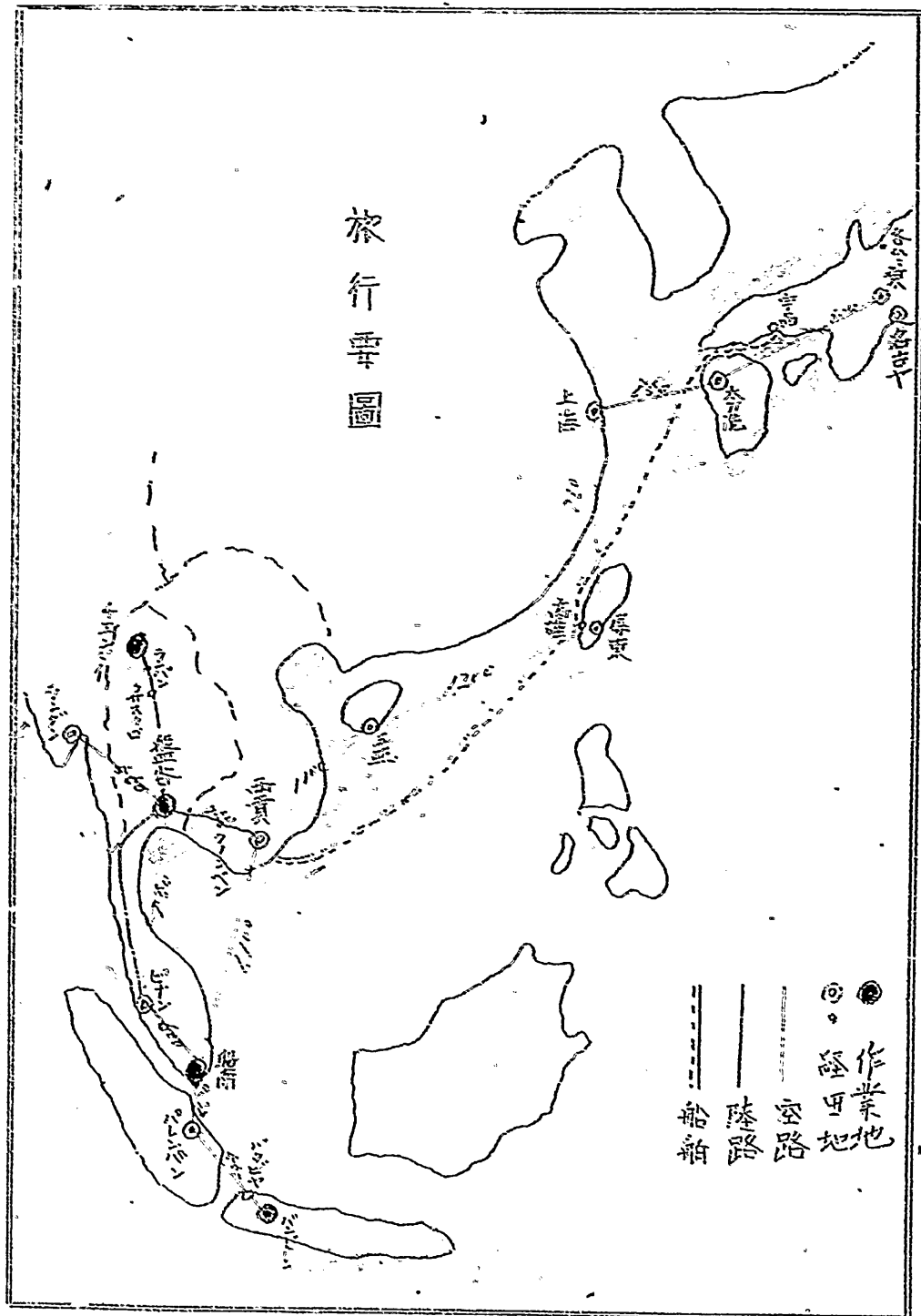
請求ニ依リ、藥莖は船ニテ運付ス(別紙第十一) 三十日「ホー」三ノ間
係作業ヲ終アセルヲ以テ(別紙第十一參照) 機關銃上兵檢ハ後トシ、部
品ノ一部ヲ保管ヲ依頼シ別紙第十三ノ如ク連絡ノ上全買入中村軍
曹共) 鐵道(交通車)ニ依リ盤谷ヲ出発シ「フエニマイ」ニ北上ス、途中「クサン
ロー」及「コンパン」ニ各一泊シ、四月二日「フエニマイ」ニ到着シ、飛行第六
十四戰隊ニ於テ戰隊長各中隊整備班長等ト作業要領ニ関
シ協議シ翌三日ヨリ武洞間ノ予定ヲ以テ同戰隊ノ「ホー」三ノ現狀修理ヲ
開始セリ、作業ハ終ベテ機上取付ノ儘出勤間少時ヲ利用シテ実施スルモ
ニシテ班員ヲ三ノ中隊ニ分テ修理ヲ実施スル共ニ整備班員ヲ指導シ援
助ス、四日第五集團兵器部ヨリ別紙第十四ノ如ク、隼四七中隊
ニハ要修理兵器ナレトノ連絡アリ、馬素方面ニハ戰隊ナク
九七戰隊モ目下戦斗狀況ニナレトノ情報ニ依リ五日別紙
第十五ノ如ク第三集團兵器部ニ對シ修理ノ要否ヲ照合ス、
十日一般ノ作業ヲ略シ終ラセルヲ以テ井上工員ヨリ中村軍曹ト共ニ

鉄道(交通)ニ係ル整備ニ充テシメ第十九航空廠ニ設置セル機関銃ヲ
 與テ修理セシム。戦隊ニ於テハ機関砲ハ尙不ニ完全ナルヲ以テ更
 ニ整備班員ヲ應援ヲ続行ス。十一日總軍兵器部宛第三集
 團ノ状況等ニ関シ別紙第六十六、如キ照合電信ヲ發メ
 第六十四戦隊ニ於テハ修理作業並ニ指導援助ノ目的ヲ機
 達セルヲ以テ十三日別紙第七十七、如キ注意事項ヲ令爲手交シ
 十四日「エー」ヲ出發シ十五日機隊ニ帰還ス。同日第十九航
 空廠ニ出頭セルニ馬來方面ニ前進スヘキ指示(別紙第七十八)ヲ受領セ
 ルヲ以テ直ニ別紙第七十九ノ如ク予定期間式週間ノ延長ヲ申請
 ス。同時ニ第五集團兵器部ヨリ、独飛四十七中队ニ於テハ
 故障狀況通報ヲ受領ス。別紙第八十ノ如ク、十九航空廠ニ
 於テ作業シアル者共ハ十六日機隊ニ收容ス。同日更ニ航空兵
 器部ヨリ班ノ行動ニ関シ別紙第八十一ノ如キ指示電文ヲ受領ス
 第五飛行集團ノ作業ヲ終アセルヲ以テ別紙第八十二ノ如キ中

間報告ヲ作成ス。十七日ニ適當ナル列車ナク翌十八日國戸驛訖以
 下ヲ鉄道(軍用車)ヲ以テ昭南向ケ出發セシム。旅行日數五日ノ予定
 ナリ。班長ハ二十一日空路昭南ニ旅行シ(定期週二回)同日第三飛行
 集團兵器部ニ出頭シ航空兵器部宛到着ヲ電報シ(別紙第三三)
 連絡セシ結果昭南島セハワン飛行場ニアル集團野戰航空修
 理廠及札哇ニ於テ作業ヲ実施スル下ニナリ。二十一日夜班員到着
 待テ二十三日ヨリ修理廠ノ作業ヲ開始ス。此間ニ於テ關係命令
 ハ別紙第二十及第二十五ノ如シ。二十五日未ダ三九挺ノ修理後ノ
 試験射撃ヲ完了ス。直ニ札哇ニ前進予定ノ處飛行機都合
 ニ依リ延期シ此間八九回機ノ甚テ修理工ス。二十六日集團兵器部
 ヲ通ジ航空本部部長宛部品ノ整備ニ関シ別紙第二十六ノ如
 キ參考意見ヲ開陳ス。第三集團ニ於ケル教育資料トシテ別
 紙第二十七ヲ調整ス。札哇行進行機ハ容易ニ補足シ得ズ五日日
 漸々塔乗シ昭南發バド(札哇)ニ直行ス。同日集團野戰航空修理

分廠ニ於テ同廠及第三飛行團關係者ト會同シ修理作業並教
 育實施方法ニ関シ詳細協議ス。其ノ際戰隊ニ於ルホロニ現
 況(別紙オ三)及七九七機關銃ニ対スル希望(別紙オ三)ヲ聴取ス
 翌二日より第四十一飛行場大隊ニ於テ作業ヲ開始ス。先ニ飛行
 第七十五戰隊及整備(ニ就キ機關銃關シ修理及教育ニ實
 施シ(別紙オ三)ニ同時ニ故障狀況調(別紙オ三)ヲ受領ス。同時ニ飛
 行第五十九戰隊(一式戰機)ニ就キ機ヲ取り除キシル。砲八挺ノ修理ヲ
 行ヒ次デ機上取付ノ儘ノ砲十挺ヲ修理上完檢メ。此間戰隊等多
 數ノ人買ヲ教育ス。五月四日修理作業ヲ終了セルヲ以テ五日朝
 技師・重爆ヲ利用シテ工買ヲ先發昭南ニ向ハシメ射撃ヲ行ヒ。同日
 夕刻班長及國戸囑託ハ旅客機ニ依リ「バビヤ」ニ行ク。バビヤニ至ル
 間ハ旅客機機體ノ漸ク九日班長十日國戸昭南ニ至ル。尚オ五十九戰
 隊ヨリ別紙オ三ノ如キ改正希望ヲ受領メ。昭南ニ於テ班ヲ遣ニ
 西貢ニ帰還スベキ命令ヲ見ル。修理廠等ハハ方飛行機ヲ求メ斷ク

十月内地帰還ノ各務ヲ原重爆ニ便乗し西貢ニ至ル 第二十五
 航空分隊主航空兵器部ニ出張夫ニ所要ノ報告行フ、同機更
 ニ便乗シ在力依頼ヤシモ便乗者荷物増大ニ果テ其ノ軍実期
 ハ旅客痛難シ塔案ノ見込立ズ 其ノ内地帰還ノ重爆ノ適
 宜モノノ徒然日ノ過ハコトヲ節シ十五日貨物能九州丸ニ全買
 便乗し西貢ヲ出帆宇品港ニ向ッ十九日高雄ニ小憩ニ二十日
 宇品ニ上陸し帰還ス船内七昼夜新ナリ直ニ廣島ヨリ鉄路
 名古屋ニ至リ一泊所要ノ申告ノ後上京シ 航本・兵本・航技
 等ニ大シ口頭報告ス



二 作業遂行ノ状況

人 作業予定

明細ナル作業予定ハ要修理兵器ノ状況常ニ不明ニシテ最後迄立上ル事ニ得ズ
先ヨリ作業ニ着手前西貢ニ於テハ聞マル情報ニ基キ立案セルモノハ第一案ホ
(別紙ホナ)ニシテ此処ニ於テ受命ノ期間今日ハ短少ニ過クルコトヲ予知
シ得タリ終戦ノ進捗ニ依リ細部ナル予定計画立案ヲ企圖セルモノ
最後迄状況不明ニシテ完備セルモノヲ立案シ得サリハ班ノ行動ニ
関シ甚シキ不利ヲ生シタリ尚交通不便モ亦計画ヲ無効ナ
ラシムル重因ヲナス 第五飛行集団ノ作業ヲ終ラシ 中三
飛行集団ニ移動ヲ指示セラレ既ニ予定期間ヲ五日餘スノミ
トナリ四月十五日ニ週間ノ企画ヲ直屬部隊長タル第五航
空分隊長宛中請ス(別紙ホナ九)ニ週間ハ昭南ノミニ作
業ノ計画ナリシモノ後臥咭ニ前進ノ指示ヲ受ケ交通機関
ニ最大傷ムセルモノ更ニ一週間ノ延長ハ止ムヲ得サル(シト思考セズ

2 作業の実施

作業の実施状況ハ別表オセ、如し

セニバツン(昭南)及同ンドン(爪哇)ニ於テハ充分適当ナル器材ヲ利用シテ射撃等ヲ作成シ射撃試験ヲ實施ス(クイ)及同ンドンノ半数ハ飛行機ニ取付ノ儘員、他ハ取離セルモノヲ作業ス(同ムア)盤(卷)ニ於テハ彈藥等ヲ射撃ト可能ナリシガ具、外全卸シテ行フ
 更ニ滞在日數ハ要員到着以來五ノ日ナルニ比シ、突如作業日數ハ二十七日ニテ約半数ハ交通ノ妨礙等因リ
 作業時間ハ宿舎ト作業所、距離等ニ依リ一ト是セサルモ概ス九時ヨリ十九時ナリ

3 教育指導

ホーミハ新制式ヨナルガ現地ニ於ケル之ニ関スル知識ハ一般ニ幼稚ノ狀況ニールヲ以テ希望ニ依リ取扱法修理法等ニ関シ修理工業中ニ教育指導ヲ實施セリ其ノ經過ハ別表オハ

ノ非シ 一般ニ戰隊ノ熱心ニシテ戰能程度高ク協力部隊ハ率
ニ徹底シテラズ、尚覽電部隊ハ航空技術研究所編、説明書
ヲ有ス。

修理員及修理部事項

組部修理員及修理部ハ別表第十一ノ如シ

原因別故障統計表(別表第九)交換部品表(別表第十)耐
ノ作業上將來ノ參考事項

(1)「ホーシ」ノ如ク戦斗機ニ搭載スル兵器ハ機ト連合ヲ要スルコトヲ
一般ニ砲ノ寿命ハ至短ナルヲ以テ部品ノ耐久性のトモノ慮ハ多
ク其ノ要ヲ且ツ潤滑油ナル直屬予備品ヲ利用シ得ルヲ
以テ携行予備品ニ盡シテ可ナリ、別表第十一ハ修理
超七十五ニ對スル員數ニシテ整備ノ關係上予備品ヲ有
セズ且ツ旧式品ナル爲メ交換セルモノ多數ヲ含ムモノナリ
又及面尾輪等鉄輪等特殊部品ヲ携行スル要アリ

- (四) 工兵類ハ部品ニ及ミ十分豊富ニ攜行スルヲ要ス 現地特ニ
戦隊ニ於テハ工兵的設備乏シク 運化部位ト雖旅行斂削ノ
要少カラサルヲ以テ 斂結ニ紐キ斂ハ多數攜行スルヲ要ス 別表
第五記載ノ 斂類ヲ携行セルニ紐キ更ノハ不足シ困難アリ
- (ハ) 南方方面ハ暑熱甚ムシク 内地ノ如ク作業衣袴其必要ヲシ 現
地ニ於テ関袴シツ及キ更ニ其用スルヲ最ニ便利トス
水筒ハ可及的大量ニモヲ携行スルヲ要ス 雨衣ハ必要ナシ
- (ニ) 工兵ノ員數ハ三名ヲ最ニ限トス 陣立 延引ハ時 環境
ニ依ルニ振替力ノ高 休業 頗多シ 作業ニ支障ヲ生シ易シ
- (ホ) 航空修理廠設備
航空部隊ハ各飛行師團毎ニ即戰航空修理廠ヲ有シ
工作機械等若干ノ設備ヲ有スルヲ以テ簡單ナル靴ボルト等
ハ直ニ工作補給シ得ルノ便アリ 但シ航空材料ノ知識ヲ
有スルヲ要ス 設備状況別表 表十四ノ如シ

三 現地兵器ノ現況並制式改修下ノ意見 ノ現地兵器ノ現況

ホーロ三

（一）番以前ノ砲或ハ新品ト交換セラシメ或ハ行戦其ノ消耗シ戦隊ニテ
此ノハ比較的 新シキモノミナリ 戦隊ノ要領並初ハ機動部ノ戦一般ニ大ニ
シテ修理ニ於テ再ビ之ヲ修スルヤリ 使用油ハスベツト油ノミニシテ機銃油
ハ全クシテ入リ戦間ニシテ行ヒ其ノ状況ニ比シテ良好ナリ 現地ニ於テ最
モ苦心シタルハ式実包使用ニ伴フ發不足ニ依ル不發ノ故障ナリ 良好ナル
油ノ収得ヲ申請スルト其ニ一部ハ油ノ長サヲ補足スル等ノモノニシテバ
油ノ彈藥力増大ニ努カシマリ 出動前ハ不發射ヲ行ヒ其ノ結果
若干機銃ヲ發射シ行スルニテ不拘當戦斗中諸
種ノ故障ヲ發生シ機上ニ於テ故障排除ニ努カスル其ノ効
果モノル状況ナリ 機上ノ故障ノ原因ハ必ズシテ砲兵ノ操作
不良及耐房設備ノ機能不良ニ由ルモノ亦少ナカラズ

砲行機ニ取付テ飛来し予備品ノ後送達スル爲戰隊ニ於ケル
予備品ノ數之甚カレ得ニ擊墜セザルニ隨時補給セラレリ

彈藥ハ固モ二三道早炸裂ノ危険アル爲戰隊ニ依リテ之ヲ使用
せず止し又防弾装置ヲ附シテ之ヲ使用セリ未ダ一砲式裝備ヲ殘
存セアルモ概テ戰隊砲ノミノ裝備ニ改裝セラレリ

砲ノ程度モ逐次向上シ且ツ整備取扱ノ向上ト相俟テ近日全面ヲ改メ
(四)ホロミハ機能ヲ十分ナルモ不拘戦斗ニハ絶対必要武器ナルコトヲ確
認セ
テ既ニ八九國機ハ新銳敵機ニ對シ彈丸効力薄弱ナリ

(ハ)基地ニ於テ故障又ハ敵襲ニ依リ破壊セル砲行機ヲ殆ト其儘殘
存セアルヲ以テ之等砲ノ活用ニ關シ至急具作策ヲ講スルヲ要スヘシ

乙 制式改修正

(イ) 積荷關係

(ハ) 現午勤積荷ハ現地ニ於テハ全ク要領ニシテ送兵廠ニ於テモ「ロープ」等
ノ利用ニ依リ十分ナルヲ以テ全廢セラレ度

(6) 千四十三・千四十五ニ於テハ油圧積桿ヲ廢止シテ高動大積桿ヲ附セラル度

構造ヲ單統ニシ故障ノ因ヲ除去スルニテリ

(7) 油圧積桿ハ千四百ノ如ク遠隔線縱用トシテ將來並ニ就キ作動迅速ニシテ操作確良ナルモノヲ速ニ研究セラレ度

(8) 積桿ハ右ノ如ク二種類トシテハ整備ハ撃発機ノ如ク砲ト分離シ能率ヲ向上セシムルヲ適当ナリトス

(9) 撃発調節桿全廢セラル度

(10) 撃発止ばね

撃発止ばねハ現行式実包ヲ使用スル限り現則ニテハ十分ナルヲマスカレズ外捲込式ヲ再研究スル要切ナリ外捲込式トス場合ハ底栓ノ撃発止ばねヲ千三號ニ改ムル要アリ

豫備品

砲ノ制込後日尚淺ク連絡不良ニ基因スルと見サルトモ現地ニ於ケル部品ノ整備ノ状況ハ遺憾ト莫多シ

先づ部品明細表取スハ

之ニ就ルモノヲ速ニ現地ニ交付スル要アリ

現行ノ砲直屬豫備品ハ道六ニシテ或ハ砲玉等三輸送不能ノ場合全ク無キ或ハ新品多量備品ヲ遺棄スル現況ナリ 速ニ予備品ノ整備ヲ次ノ如ク分シ之ヲ現地兵器部、修理廠等ノ勿論現地戦隊ニ至ル迄適確ニ認識セシムルヲ肝要ナリ

小砲直屬予備品 本予備品ハ戦隊整備班ヲ目標トシ及不限り少量輕易ニラレテ遺棄等ニ收容シ輸送間ハ必ズ恒ニ飛行機ト共ニ行動セシム 生産整備班ハ砲ニ直屬スルモノト現行予備品ニ同じ

其ノ内容品目員数ノ一は本別表第十一ノ如シ

(四) 部隊豫備品

本予備品ハ野戦航空修理廠(移動勤務修理班等)ニテ所管シ戦隊ヨリ還送セラレタル兵器ヲ修理シ又戦隊ニ対シ部品ノ補給ヲ行フ爲メニシテ適宜ノ収容ニ收容ス生産整備班ハ砲ト分離ス

其ノ内容品目員数ノ一は本別表第十一ノ如ク概ネ砲二十挺ニ対シ

一、割合ニ整備スルモノトス

八、屬區

現行屬區ニ對シ、民衆聲望、主權除穢（リ）ニ及聲望、由結合具ヲ
追加セラレ、應

四、將來ニ對スル參考事項

ノ連絡交通

南方軍占領地帯ハ地域廣大ニシテ飛行機ニ依ルニアラザレバ能率的行動ハ希ムベカラス。然レテ一週定期ハ週一回ノ如キ綿薄ナルモノ多ク利用者又過大ニシテ工員ハ絶対ニ之ヲ利用シ得ズ船舶ノ便良好トナルモ昭南爪哇間六日間ヲ要ス。鐵道ノ便モ遂次良好トナルベシト思考スルモ現在ハ盤谷昭南間五日ヲ要ス。如斯交通ハ不便ヲ極ムルヲ以ッテ迅速ニ且ツ能率的二作業ヲ實施セシムル爲ニハ修理班ニ飛行機一台ヲ附隨セシムルヲ最良ナリトス。現地ニ於ケル自動車モ亦甚ダ不便ナリ定期事務所ニテ自動車ヲ有シ旅客ヲ收容運搬スルノ着意全クナシ。又中央部ニ於テ現地兵器ノ現況ニ對スル認識又甚ダ不充分ナルヲ以ッテ修理班派遣並補充分ニ連絡シ作業計畫ヲ立案シ得ル如ク設置シ、オウヲ要ス。

又、ホ一〇三現地修理再派遣ノ要否

其ノ要ヲ認メズ取扱者ノ教育ハ概ネ充分ニシテ且旧武器ハ總ベテ改修ヲ
実施セリ將來トシテハ内地ニ於テ充分良好ナル兵器ノ生産ニ努カスルヲ
肝要ナリトス

3 爆撃機武装

(1) 射距離並彈丸威力ヲ増大スル爲ニ千幾級機關砲ヲ装着スルコト緊要
ナリト思考ス一〇〇〇米ヨリ射撃ヲ開始スル敵機ニ対シ無抵抗狀況ニ
アリ

(2) ハ九砲機ハ速ニ一〇〇式砲機ト交換スルヲ要ス

4 飛行場ノ防空

飛行場防空不完全ナル爲敵機ニ依ル損害甚大ナリ対空機關砲並
機銃ノ充分ナル設備ヲ附與スルヲ要ス

高射機関銃ハ現一〇式旋機ヲ改造スルヲ最適ト思考ス

今砲ノ操作系統

砲ノ操作系統（発射機動装置、電磁石、横桿用油圧系統）ノ整備
並ニ現地ニ於ケル之が取扱法ヲ向上セシムルヲ要ス殊ニ内地ニ於ケル
整備検査ハ充分綿密ナラシムルヲ所望ナリ

昭和一七、二二 兵總複寫

被 電 報

一、三一、一八、五五
二、一、〇、一五

兵站總監部參謀長 宛

國部係參謀長

南航空電一八七号

航空兵器現地修理ノ意左ノ如ク人員派遣方取計ハシ度

一、修理兵器及修理程度、機関砲特ニ撃発機関、點檢修理、爆撃標準、眼鏡
及射撃標準具ノ點檢、調整特ニ曇リノ除去、九九式自動操縱機ノ點檢、
調整修理

二、人員及資材

關係工場ヨリ兵器ノ種類毎ニ熟練者一乃至二名所要ノ器具、部品等
携行ス

三、期間及到着地

現地滞在約二箇月到着地西貢

通 電 先 兵站總監部 野戰航空兵器長官

配 布 先 銃砲課 機械課 器材課 軍事課 ○航本七課

(終)

陸兵總人高第二八四号

南方軍管下部隊航空機關銃現地修理班派遣ノ件通牒

昭和十七年二月二十五日

陸軍兵器本部次長 小須田勝造

名古屋陸軍造兵廠長 白倉司馬太殿

南方軍管下部隊ノ試製十二七花機関銃ノ現地修理班ヲ別紙要領ニ依リ派遣セラレ度依命通牒ス

別紙

航空機關銃現地修理班派遣要領

一、目的 南方軍管下部隊ノ試製十二七銃機關銃ノ現地修理ヲ實施スルニ在リ

二、派遣期間 昭和十七年二月下旬以降約一ヶ月

三、編成 特 技 一名

囑 託 一名

工 員 三名

四、派遣間 南方軍司令官ノ区々ヲ受クルモノトス

五、機材行スヘキ部 品材料ハ兵器本部長適宜準備携行セシムルモノトス

六、人員及資材ノ輸送ハ航空本部ノ補給用飛行機ニ依ルモノトス

七、工員ノ所要被服ハ陸軍被服本廠ヨリ貸與スルモノトス

八、所要經費臨時軍費トシ航空本部ノ支辨トス

別紙第三

電 文

二月二十八日受信

名古屋陸軍造兵廠長宛

兵器本部總務部長 宛

真木少佐以下ノ出張地ハ各務々原トス

日次ハ三月三、四日頃ナルモ確定次第ヲ通知ス

荷物ハ九五程ニナルモ差支ハナシ

別紙第四

電 文

三月一日受信

名古屋陸軍造兵廠長 宛

兵器本部次長 宛

真木少佐以下ノ出張地ハ岐阜縣各務々原トス

日時ハ三月六日ト確定

修理 取扱ハ現在モ之ニ同じ

別紙 第五

指示、並行合セ事項

一 兵器本部

ノ 統務部長

- (1) 現地ニ於テハ各謀關係ニ良ク連絡スルコト
- (2) 現地修理ノ將來問題ヲ良ク研究スルコト

ニ 作業部（奥野中尉）

- (1) 報告ハ兵本第五部提出ノコト
- (2) 入件費ハ名造ヨリ直接航本處請求スルコト
- (3) 機件部品工具等ニ關シテハ兵本ヨリ論文ヲ發ス
- (4) 面貢ニ列着セハ統軍司令部兵器部長武田少將（矢島中佐）ノモトニ玄頭スヘキコト

- (2) 期間一ヶ月ハ現地ニ於ケル期間ニシテ延長ヲ要スル場合ハ現地司令官ヨリ額ヲ提出ノコト

二航空本部第七課

ノ族生少佐

ハ当所総軍司令部參謀部航空班永石少佐ニ連絡シ作業ヲ實施スル

コト 但シ細部ニ関シテハ技研野田大佐ニ連絡スルコト

ハ帰路ノ飛行機等ハ永石少佐ニ依頼スルヲ可トス

ニ外村少佐

飛行機ハ天候ニ依ル該本部目ノ細部ハ不明ナリ航空本部廠延田中佐

ニ就テ細部連絡セラレ度

ハ柴田大尉ハ各務々原輸送部支部

ハ操縦者不足ニ現況連絡シ要スル人員資材ノ滞留甚大ナル現況ナリ

ハ六日迄急シ得ル他ノ努力スルヲ以テ五日午後班長各務々原ニ出頭

シ連絡セラレ度

三南部銃圖戶技師以下ヲ會合シ五日午後六時政事廳ニ集合セシ

ムルコトス

別紙 第六

昭和十七年二月十四日

陸軍航空技術研究所 野田大佐

名古屋陸軍造兵廠千種製造所

尾川大佐殿

今般南方ニ機関銃砲修理ノ爲貴廠ヨリ現地修理班差出サル旨及關之ニ
關シ連絡仕リ候

一「ホー〇三」

ノ故障相当多発シアリ主要ナルモノハ突不足ニシテ撃茎ばねノ衰損ニ
依ル外

ノ尾栓撃茎室ト撃茎トノ軋リ

ノ撃茎内部ト撃茎ばねトノ軋リ

ノばねノ外径ノムヨリ大ナルモノニ依ルモノ多シト判断セラル依ツテ

撃茎ばねノ予備品並ニ各室ノ「リーマー」仕上撃茎外部研ニ力
出来レハ結構ト存候

0054

二、碍子ばね 送彈子ばね 衰損ス予備品ヲ撥行ス

三、抽彈子 折損 予備品撥行

四、保莢子 同ばね 保莢子軸 予備品撥行

五、撃子基ばね(全長一二〇粒位ノモノニテ現制ヨリ若干強ギモノ等)

予備品撥行

二八九式固定 ハ九式旋回 予備品撥行

今迄通りノ故障ニテ破損部品ノ統計ニ基キ之ヲ修理予備品
撥行セラレ度

三、人員第一回調査トシテ將校一判任官一工員若干次イテ

判任官一工員若干ヲトッ事

南部ヨリ八人員不足ノ爲難シキ様申し居リ候

真器本部ヨリ南部ニ名出ス様條簡少部ヨリ通知アリ

タリ

別紙 第七

電 文

三月二十日

1. 航空本部 長 宛
 2. 兵器本部 長 宛
 3. 名古屋造兵廠 長 宛
- 永一〇三現地修理班員 木少佐以下五名ニ〇ヒ面貢ニ到着セリ

航空兵器部 長 宛 電信午後三時依頼

別紙第八

南總命第二六號

航空器材修援助ニ関スル命令

三月二十一日
面頁

一 航空機関銃砲、現地修理指導援助ノ爲 陸軍兵器本部
陸軍兵技少佐眞木文三郎 囑託岡戸政吉 工買井上
三喜雄 同任本昌雄 同大澤久雄 ヲ機下ニ入ラシム
二十五 航空分廠長ノ指揮下ニ入ラシム

二 第五航空分廠長ハ前項人實ニ第三第五飛行集團
方面ニ派遣シ 現地修理ヲ指導援助セシム可シ。

派遣ノ細部ニ関シテハ 航空兵器部長ヲシテ指示セシム。

三 南總命第一〇五號命令別紙中 陸軍航空整備學校技
手 三宅芳男ヲ追加ス。

南方總司令官 伯爵 寿内壽一

別紙第九

南航技発 第四〇二號

「木三」現地改修実施希望事項ノ件通牒

昭和十七年三月二十日

南方軍航空技術部長

服部武大

南方軍航空兵器部長殿

首題改修実施ニ関シ野田大佐ノ意見ニ基キ技
術上別紙寫ノ通眞木少佐ニ希望セシニ付キ通牒ス

南航技審第四〇二號別紙

「本二三」現地改修実施希望事項

昭和十七年三月二十一日
南方軍航空技術部

「第一次改修以前ノモノ」ニシテ改修未実施ノモノ（復些バ収束拡大セザルモノ）ハ
昨地ニ還送（約百基位）ヲ適當トセン
ニ其他ノモノハ左記事項ノ改修ヲ實施ヲ希望ス

改修部位	目	改修要領
砲 身	砲身前端ト後筒トノ 間付ヲ防止ス	砲身前端部ト後筒トノ 隙隙量ヲ 約一センチ ニ
尾翼	脱落ヲ防止ス	脱落セザル如ク堅固ニカシメ作業ヲ行フ
穴包張り板	張彈ヲ排出ヨ良シス	穴包張り板ノ厚キモノト交換ス
穴 包 止	張彈ヲ喰込ミヲ防止ス	保持筒ト後筒キモノハ修正ス
初撃ノミテ再撃板	初撃ノミテ再撃ヲ防止ス	前部後部ヲ削ル
砲身ノ後部調整	外側ニ出サシ片栓ノ側方ニ 在ラズスヲ防止ス	「四四」ノ裝備ノモノニ限リ駐一ヲ 稍短クス
砲身ノ全長	効力大ニ送テヨ良シス	バねヲ交換ス

攀	茎	尖不足ヲ防止ス	尖端ヨリ尖銳ニシテ突出量ニ四ヲ標準トス
攀茎ばね	突不足ヲ防止ス	予圧量ヲ大ニシテ且ツばね外歪ノ大ナルモノハ交換ス	
攀茎鉤定桿	曲リヲ防止ス	交換ス	
尾	栓	攀茎ニ生じた突不足ヲ防止ス	リーマ仕上ヲ行フ
掛	子	掛蓮不良ヲ防止ス	油導ニ塗布板、側面ヨリ摩擦セルモノハ削ル
棒	器	彈簧ノ片部並ニ分入ル処ナシ	底部 鋸部ヲ平滑ニス 動キ止リヲ削除ス
		葉莖口部皺損ヲ防止ス	此ノ部ノ面ヲ削ル

別紙第十

ホロミ現地修理計画第一案（概略）

三月二十一日

一、第五能行集團分（約五〇挺）

ムバンコック

ムランパン

ムモールメン

移動共約二〇日間

二、第三能行集團分（約五〇挺）

昭南

移動共約十四日間

三、残西貢

移動共約十四日間

註 西貢・昭南間移動十日間並に要る現況を以て更に

連絡等ニ若干死節時ヲ生ズ可ク細部状況ハ道

不明ナルモ前後式月ハ最少限ナリト思考ス

別紙第十一

平野修第三七號

電

報

昭和十七年三月二十五日

ラニパン

平野部隊長

第十九野戦航空修理廠長

「ホー」用 撃墜 発條ニ口本 至急送付セラレ度

別紙第十二

修理調書

昭和十七年三月三十日

左記兵器修理完成セリ
現地修理班長陸軍兵技少佐 眞木久三郎

左記

一 木一〇三 甲 第五七號 第五八號 第三六號

乙 第三六號 第二〇號 第二二號 計九挺

乙 第一五九號 第二六〇號 第二六四號

且、獨立飛行第四十七中隊、分

二八九 砲機(段半) 第一六五三號

一挺

且、第十九野戰航修廠、分

左、兵器修理完成レタルニ付、受領ス

昭和十七年三月三十日

第十九野戰航交修理廠

別紙第十三

最前砲現地修理修繕諸事項

昭和十七年三月二十日

陸軍少佐 眞木文三郎

坂口部隊中

一 班長眞木少佐に、右第一砲台一軍曹一員三ハ期三十日
 出發、今エニマイ、如藤部隊三列、修繕ヲ実施セントス。部隊一
 式、眞木少佐、状況ニ依リ今エニマイ、修繕期日ハ不明ナルモ終了セバ貴
 部隊ニ出頭ス

二 眞木少佐ニ對シ、連絡ハ右ノ事項、尤ノ如シ。特ニ急ヲ要スル場
 合ハ如藤部隊員付ニテ、電信相願度

ハ第五集團兵務部（陸軍省）一坂川部隊、状況
 ハ統率砲臺兵務部（海軍省）一第三集團ノ状況

別紙第十四

電

文

四月二日受付

加藤部隊長宛

ドムアン電(中村譯)

第十九野戦航空修理廠庶電第三五三號

マギ少佐 第五飛行集團兵器部長ヨリ

主記入電アリ

四七一三號 固定機関銃修理要スルモノナレ

別紙第十五

電

文

四月五日發信

第三飛行集團兵務部長宛
第六十四戰隊長 災

十二花七園定機関砲現地修理班眞木少佐
以下五名當地ニ作業レアリ 貴地ニ派遣ノ要
否 至急返

別紙第十六

電

文

四月十一日發

總軍航空兵器部長

宛

第六十四戰隊長

夢

機關砲修理班ハ並ニ第五飛行集團ノ作業ヲ
終了シ十五日第十九野戰航空廠ニ至リ待
機ノ豫定ナリ 第三飛行集團關係其他
班ノ行動ニ関シ指示セシメ度シ

別紙第十七 第六十四戰隊長加藤中佐ニ手交ス

注意事項

昭和十七年四月十三日

ホ一〇三 現地修理班

一 撃莖はねハ適時点検シ抵抗力三冠以下ナル時ハ交換スルカ 更ニ四捲
以内補足スル下

二 撃莖ノ突出量ハ 當分ノ間ハ能以上ニ調整スル下

三 手入後ハ塗油組立スルハ勿論 スピンドル油ハ油澁不足スルヲ

以ッテ植物性油(カストル油等)ヲ少量使用スルカ 潤滑鎖油ヲ
若干混用スル下

四 發射速度小ナル場合ハ撃莖駐鉤圧桿ヲ以テ試射シ充分ナラバ發
射聯動裝置ヲ点検スル下(ボデー索ニ軋リナキヤ、突出量不足セズヤ、

撃莖子ノ撃莖駐鉤點子ニ対スル位置良キヤ等)。

五 閉鎖不良ナル場合ハ彈藥帶、彈倉内ニ於ケル抵抗ノ有無ヲ点検スル下。

六 彈藥ノ裝填ハ必ず保彈子ノ二環ヲ先頭ニ行ッ下。

別紙第十八

電

文

四月九日 発(受)信

第十九野戦航空修理廠長宛

南方軍航空兵器部長 發

貴地ニ在ル眞木少佐及高橋中尉一行(修理班)ヲ馬來方面ニ前進セシメ度モ差支ナキヤ返

返 信 済

返信文意

眞木少佐一行ハ目下チエンマイニ在ルヲ以テ待タレ度

四月十五日發信豫定ハ十九野戦ニテ處置スルヲ以テ出發準備セシ度
眞木少佐一行ヲ馬來方面ニ前進セシム

別紙第十九

電

文

第二十五航空分廠長宛

四月十五日發

眞木少佐一行ハ馬來方面ニ前進セントス
豫定期間ニ週間延長相成度

註ハ予定期間ノ延長ヲ要スル場合ハ第二十五航空分廠長

經由トセラレ度旨連絡アリ

又予定満了迄五日間ノミトヤリ 昭南西貢ノ旅行日数
ヲ十日間トシ 作業五日 予備五日ヤリ

別紙第二十

五 飛集兵部外

機関砲（ホ一三）十三挺故障調査表送付ノ件

昭和十七年三月三十一日

第五飛行集團兵部

總軍航空技術部 眞木少佐殿

独飛第四十七中隊ノ機関砲ハ曩ニ電報セル如ク要
修理品ナキモ故障狀別紙ノ通り壹部送付ス、

別紙第二十一

電

文

四月十六日受信

第十九野戦航空修理廠長宛

南方軍航空兵器部部長 発

貴地ニ在ル眞木少佐一行ハ馬來方面ニ前進シ
第三飛行集團ニ連絡セシメラレ度

十九野航(坂口部隊)ヨリ電話ヲ以テ連絡

機関砲(ホロ三)十三挺故障調査表

昭一七、三、二七調
独飛第四十七中隊

故	障	個	所	回数
一、射撃間撃茎駐鉤々駐板後端面脱出シ側板方形窓(撃茎押桿作動孔)殺部ニ激突シ駐板後端部屈曲尾栓ノ運動ヲ阻害セシモノ				四回
二、抽彈子準板後端過長ノタメ抽彈子降下セズ突込ヲ生ゼシモノ				二三回受領中約八〇%
三、抽彈子準板準梁肉厚キタメ側板ト軌間降下不良ヲ生ジ前項ト同様ノ故障ヲ生ゼシモノ				受領砲臺ハ大部分
四、撃茎駐鉤々部(撃茎鉤部ト响合部)破損シ撃茎鉤止不能ノタメ不發ヲ生ゼシモノ				六回

考 備	
一 機関砲故障ノセウ迄 甲砲ニシテ番蹄一五以下ノモノ 乙砲ハ一セウ以下ノモノヲ使用セシモノ下リ	五 撃発 壓桿先端下面が尾栓送彈子積 桿突筭準溝ニ激突シ圧桿先端ノ変歪ヲ生ジ 撃茎壓鈎上面ト一致セザルタメ不發ヲ生ゼルモノ 六 尾栓藥莢包底面上部毀ノ缺損ニ依ルモノ 七 保莢テバト變歪衰弱ニ依ル突込 八 保彈子拔彈抗力過大ニ依ル送彈不良 九 保彈子不良ノ斜送彈 一〇 保彈子排出不良(保彈子装填架収ニ於テ斜トナルモノ) ニ依リ送彈ヲ阻害シ閉鎖不良ヲ生ゼルモノ 一一 ア、ロ、三ヲ使用シ過早炸裂シ多砲身ヲ破損セモノ 一 回 八 回 多 数 多 数 一〇回以上 二 回 五 回

別紙第二十二

十二号七回定機河碗現地修理中間報告

昭和七年四月十六日

陸軍兵技少佐 眞木文三郎 (英バンコク)

一 作業人員及其状態

一 編成

班長 陸軍兵技少佐 眞木文三郎

班員 囑託 岡方政吉

同 工員 井上三喜雄 同 住本昌信 同 大澤久雄

二 保健状態

班員 同 保健、状況、良好ニシテ元氣旺盛作業ニ専念シテアリ

三 作業状況

一 実施経過

三月二十日西貢到着シ航空兵器部、指示依リ第三及第五飛行集團、兵器修理シテ目的トシ先ッ等五飛行集團ヨリ着手スルコトナリ集團兵器部(在ラングーン)ニ打合セシ結果概ネ左表、如ク作業ヲ實施シ四月二十五日以テ等五飛行集團ヲ終了セリ

元

表

自明至明	作業地	修理砲(銃)	延所	隊
26/3 1/4	十九野戰砲隊修理廠 小幡三郎	ホーリ三	九	野砲隊 (キ四十四) 野砲三連代 シロタルスノ
3/4 1/4	チエンマイ砲行場	ホーロ三	三九	不明 野砲三連代 シロタルスノ
2/4 1/4	十九野戰砲	八九旋	一	不明 野砲三連代 シロタルスノ

並作業以外、日数ハ主トシテ移動並其ノ準備ニ要シタルモノナリ

2. 爾後、作業予定

航空兵器部、指示ニ依リ可及的注意方面ニ前進シ第三飛行
集團、其器ニ修理セントス
同方面ニ於ケル兵器ノ程度ハ連絡保シタル爲、全ク不明ニシテ或ハ
「シマバ」等ニ出張ニ要スルヤモ不知ト雖、東南ニテ取纏メ作業シ
得ルモノトセル作業予定次、如シ

四月十七日バンコック出發

二十日東南到着

二十番並作業 船便ニ依リ西貢ヲ經テ(五月下旬)帰國
 尚四月十番並乗テ前道ノホシヲ復領セリ以テ直ニ予是ノ
 二週同延長ヲ申請セリ
 三將乘ニ対スル意見並ニ參考事項

ノホシロニ

(一)砲ハ一般ニ「ギンリ」ノ陰主不十分ナリ 砲ニ検査ニ於テハ
 「スピンドル」油ノミニテ調整スルコト肝要ナリ

(四)撃込ばぬノ喪損率過大ナリ 外砲式ハ由ニ就キ再考
 要ス(技術研究所駐在)

(一)式戦車機ニ於テハ大損耗ヲ蒙着スルコト緊要ナリ油圧
 損耗ハ故障排除ヲ要スルニミナズ新ニ故障ノ誘因トル
 石ハ現地部隊ニ於テ切望シタル所ナリ

此ノ場合現在ノ行動要領ハ其ノ必要ナシ

二砲以外ノ兵器

(一)彈藥マニロニテ達ニ見成現地ニ使用セシム度(不察防止)

四 發射聯動裝置等「ボート」系、機能ヲ向上セシメ度

其、他

現地ニ於ケル使用者側ト中天部ト、連絡ハ不十分ニシテ兵器
ノ状況不詳ナル爲計原ノ立案シ得サルミナス甚シク作業
能率ヲ減退ス。而シテ現地ニ於ケル交通亦頗ル不便ナルヲ
以テ作業條件、明確ニス。對シテ、修理班ヲ派遣ス
ルヲ有利トス。戰隊、整備班ノ指導、爲ニ將校一名
ニテ十分ニシテ其、方行動、利便ヲシ

別紙等二三

電

文

西貢 總軍航空兵器部長 宛

真 越南等ニ飛行隊置キ、航空
不少化ハ廿一日 昭南、到ルヤリ

別錄第三

三飛行集作命令第四

第三飛行集團命令

四月二二日
市

一航空機同銃砲修理指導後助、爲陸軍兵器本部

陸軍兵技少佐真木文三郎以下各名ヲ派遣セラル

二集團野戰航空修理廠長ハ前項人員ヲ區處シ駐南及

北哇ニ於テ航空機同銃砲修理並ニ第三飛行團及集團

野戰航空修理廠整備取扱教育ニ實施スベシ

三等三飛行團長ハ隸下飛行部隊ヲ以テ前項教育

ヲ受ケルムベシ

其細部ニ關シハ集團野戰航空修理廠長ト協定スベシ

第三飛行集團長

菅原道大

下達法 印刷交付

既命先通致先

報告書

南方軍

別紙等三十五

集野航修作命令第一五號

集團野戰航空修理廠命令

一航空機用航砲修理指導援助隊爲派遣セラル陸軍

兵器本部陸軍兵技少佐眞木文三郎以下五名ヲ派遣

ニ昭南及瓜哇ニ於テ航空機用航砲修理並ニ第三飛行

團及集團野戰航空修理廠整備取扱教育ニ實施ス

修理指導班ヲ行ハシテ是ニ由ル

人買ニシヨリ約三月間昭南ニ於テ爾後瓜哇ニ到リ同地ノ

修理並ニ整備取扱教育ヲ實施ス

瓜哇ニ於タル修理並ニ教育終了後再ニ昭南ニ於テ實

施スルコトアリ

ニ本隊工作科長及山口隊長ハ船庫及机達ニ於テ前項
器械修理並ニ新要ノ人員ヲ整備取扱教育ヲ受ケル
ハシ机達ニ於テ修理並ニ教育等ノ細部ニ関シハ山口隊長
ハ第三飛行團長及島本少佐ト直接協定スル

空軍野戰航空修理隊長 三田 俊

下達並ニ口達及電報後印刷交付

配布(並ニ)先於隊下各隊 三飛行團

教官先 三飛行團

別紙第三

示一三三 部 品 概 備 二 箇 入 ル 件

此一三三 部 品 概 備 二 箇 入 ル 件

一 制 入 預 備 品 下 (輸 送 所 係 上) 除 外 以 得 ル 天

砲 身 並 銃 口 下 同 套 並 銃 口 貼 示 尾 部 檢

圧 彈 引 鉄 下 同 軸 抽 彈 子 下 手 降 彈

二 腐 品 中 特 必 要 ナ ル 天

示 尾 部 引 鉄 下 同 軸 抽 彈 子 下 手 降 彈

三 預 備 品 一 覧 表

註 疏 本 版 第 三 部 長 荒 川 下 代 廣 直 儀 等

三 集 團 兵 器 部 員 下 村 下 代 廣 直 儀 等

別紙第三七

千入と檢査す。於ハ花ノ事項ニ就テ留意セシレ度
昭和十六年四月三日
 以貴色ヲ裝類ハ定テ神運器ヲ便用スルコト。又不良件彈子及欠入ハ彈
 ハ統共ニ使テセラルコト
 又彈子ヲ既ニ裝着スル時ハ待彈子ノ二装側ニ先頭トスルコト。又彈子
 存スル「リキカ」リ「キ」コト
 又底金ノ前進ハ作動位置迄一氣ナシコト
 又用鎖半勢ニ於テ既ニ後座バネガ働キルコト旧式ニ於テハ特ニ留意ス
 又前方蓋板ノ閉ル時ハ待彈子ノ揺動ノ突衝ヲ尾栓ノ彈子ヲ啣入セシム
 又蓋板ハ恒ニ空動状況ニ在ルコト。此ニ受圧板蓋ニ觸レテ入途油ヲ行コト
 又油彈子車板ノ起彈子軸ノ作動ニ對シ緊要良好ナルコト
 又以撃込バネハ時々交換シ撃込ニ定規形端ニ於テ以テ上ルコト
 又撃込ニ突出量ハ必ズ標準トス。又スリネ亦依リ突出量不足
 系「リ」ルコト

い、攀、莖、結、合、体、ハ、尾、拾、得、ヲ、輕、ク、遊、動、シ、得、ル、コト
 二、攀、莖、ト、堅、鉤、ト、鉤、止、部、ハ、良、舒、テ、ル、コト
 三、鉤、止、部、ト、被、筒、ヲ、打、突、サ、ル、コト

別紙 第二十八

電 文

陸軍航空兵器部長 宛

飛行第三集團野戰航空修理分隊長 宛

真木少佐一行ハ五月一日ベントンニ到着セリ

別紙 第三十九

航空本部第三部長殿

昭和十七年四月二十八日
陸軍省航空部第三部長殿

一、飛行機ヨリ分離セル砲ノ活用ニ関シ速ニ処置セラルシ度

二、部品ノ戦隊ニ手交ヲ促進セラルシ度

三、部品名稱員数表(細目別細表)ヲ速ニ交付セラルシ度

現行ノ予備品選擇適否ヲカルモノトシテ速ニ航空部後援研ニ意見ヲ提出ス

四、兵器部ニ於テ兵器ノ現況ヲ知悉シ修理作業ヲ明確ニ指示セラルシ度

五、内地ニ於テ航空部隊以外ヨリ修理班ヲ派遣スル場合ハ部隊ニ作業

内容ヲ依等ヲ通知セラルシ度

六、航空兵器部ハ要修兵器ノ関シ状況ヲ明確ニシテ迅速ニ作業ニ関

スル指示ヲ與ヘ班長ヨリテ作業計画ヲ立案セシメ集團兵器部ニ所要

ノ通報処置ヲ講セラルシ度

七、集團兵器部ハ班長出張セバ一目明瞭ナル如ク準備シオカシ度

五、整備班(戦隊)ノ指導ト修理並修理作業ノ指導トハ別當ニ分テシメ

能率約トス

修理ハ修理廠ニ集結作業し得ハ大ニ能率約ナリ

整備班ノ教育ハ技研又ハ実務部ノ所爲ニシテ一乃至二名ニテ最モ速ニ
(開戦当初)派遣スルヲ適當トシ修理班ハ時期尚早ノ感アリ

六、交通ニ関シ考慮セラシ度

作業能率ヲ向上シ迅速ニ效果ヲ發揮スル爲ニ「飛行機一台(事前ニ
之ヲ念頭ニシ人員ヲ決定シ)ヲ提供シ計画ニ應ジ班長ノ意ヲ始メ行動
セシムルヲ最良トス(一部器材ノ運搬ニ採用セバ無駄ナカルヘシ)

修理班ハ現地ノ状況ニ通セサルヲ以ツテ兵器部等ニ於テ令一段便宜計ヲ
シ度、班長ニ於テ適宜計画ヲ行動セラレ度、如キ指示ニテハ甚シ
ク必要時ヲ生ズ

別紙 第三十

ホーの三現況

飛行第五十九戦隊

バンドン
五月一日

ノマ一〇三ヲ使用シアリ十一月製品ハ特ニ過早破裂多シ、必ズ射撃開始
後五六発目ニ生シ連続発射後ニハナシ

ノ油圧機構ノ作動時間ヲ短縮スルカ或ハ大頑悍ヲ装着セラレ度

ノマレ一方面ノ戦闘間油ノ補給ニ最モ困難セリスピンドル油ヲ盡キ「モビル」

油ニ石油ヲ混合使用セルニトアリ 試用セル機械油（技研交附）最モ成績

良好ナリキ

ノ彈帶ノ乾燥ニハ十分留意シアリ

ノ保彈子ノ交換ニハ専任者ヲ定メ確實ニ実施シアリ

ノ戦闘開始前ハ取扱困難ヲ極メタルモ逐次新品ト交代シ機能向上シ

マレ一戦闘後半ニハ十分戦果ヲ挙揚シ得タリ

ノ一武装教官（古参中尉）ノモトニ戦隊ヲ取纏メ武装ヲ実施シアリ

別紙第三十一

七機七機関銃ニ対スル第三飛行團ノ希望事項

五月一日、二日

一「九九旋」改造 抽筒子ばね、予備銃身ノ補充ヲ迅速ニセラレ度

二照星頂ノ調整ハ更ニ細分画トセラレ度

三風致式照星ハ不要ナリ

四照門ノ中心環ハ不要ナリ 針ノ十字ノミニテ可

五後下方銃ノ葉莢受ハ其ノ容量ヲ増大セラレ度

六筒易ナル銃口蓋ヲ附セラレ度

七腔中ゲージヲ現地ニ送付セラレ度

八マコー（七機七機関銃実包）ハ温度ノ上昇ニ依リ彈倉内ニテ発火スルモノアリ

九テ四ハ機能良好ナルモ八九旋ハ操作困難ナルノミナラズ故障ヲ生じ易ク

戦闘ニ適シ難ク速ニ新製品（一〇式旋）ト交換セラレ度

十威力及射距離ヲ増大スル爲メ口径大ナル（二十口径度）機関砲ヲ爆撃

機ニ装着セラレ度

別紙 第三十二

八九並九九旋回機 図銃修理法教育事項

五月二日
於バンドン

飛行第七十五戰隊整備班教育

一八九旋 九九旋共通

一、撃基後端折損ノ場合ハ同筒後端ヲ避ガスコト

二、活塞ヲ交換スル場合、瓦斯唧筒及尾筒ト箇々ニ嵌合程度ヲ点檢シ

活塞桿部ノ矯正ニ着意スルコト 特ニ連結管ハ十分ニ逃スコト

三、同筒ヲ交換スル場合ハ包底面ヨリ後端迄ノ寸法ニ留意スルコト

四、撃基袖筒子ばね等、交換隨意實施可能ナルモ門子門子受ハ修理廠ニテ行フベキコト

二八九旋

一、閉鎖ノ場合彈送空ニ多少ノ遊隙ヲ生コト又同様ニ誘導子ノ運動自由ナルコト

二、活塞ハ尾筒内ニ於テ過大ノ遊隙ヲ生コト

三、九九旋

彈倉ノ彈送爪ノ傾倒セルモノハ修理不能ナルコト

別紙第三十三

現在迄ニ發生セル主ナル故障ト其排除要領

飛行中七十五戰隊中隊
一七五二

[illegible]

[illegible]

8600

本表ハ現在迄ニ発射セル弾数ヲ示ス

十
七
五
二
才
二
中
隊

八九旋回機関銃

銃番号	発射弾数	摘	要	銃番号	発射弾数	摘	要
5 八〇九	一一七〇			4 二〇七二	九五八		
4 七八五	一五二〇			3 四六〇	九二〇		
3 七八三	五二三			2 二九八	一七〇		
2 七〇七	二二一〇			1 五二	一三六八		
1 五六七	一一二〇						
銃番号	発射弾数	摘	要	銃番号	発射弾数	摘	要
10 三一三三	八一五			8 三二四五	一八〇		
9 八二九	五九二			7 三二四二	四五六		
8 八一九	四四一			6 二二五五	六一五		
7 八一五	一四三三			5 二二五三	九二〇		
6 八一〇	一四一五						
銃番号	発射弾数	摘	要				

九九旋回機関銃

13	八五〇	一七〇〇	銃番号 発射彈數	摘
13	一三七	九六〇	銃番号 発射彈數	摘
11	一三四	八五〇	銃番号 発射彈數	摘
17	五四四	八〇	銃番号 発射彈數	摘
16	七七八	七四五	銃番号 発射彈數	摘
15	八二六	一〇三二	銃番号 発射彈數	摘

別紙 第三十四

改修意見報告書

飛行第五十九戦隊

改修する箇所	現状	當隊ニ於テ改修状況	當隊ニ於テ改修の結果
一、油圧ポンプ	ポンプ取付口上方が腐蝕、パイプ装着に困難、立二ガバニ二依り損傷セリ	ポンプ取付口下方キス	良 好
二、後方取付金具ホルト（割栓）	割栓ヲ挿入セル様相、アルカ多、確実ナル緊定ヲナスモ割栓迄戻シ、確実ナル緊定出来ズ	割栓ヲ使用セズ、バネ座板ヲ使用ス	良 好
三、後方取付金具緊定ナット	震動ニ依り戻過ス	緊定ナットニ鑽孔し振止ヲナス 又ハ折曲座板ヲ使用ス	良 好
四、空葉莢排出口	空葉莢ヲ突過シ抽出スル際、抽込ギバニシテ機体ノ排出口入口が防害し、彈頭ヲ葉莢ニ挟ミ、儘落下シ、完全ニ落下セズ	機体ノ空葉莢排出口入口ヲ鋸打し四部ニス	良 好
五、空葉莢排出口蓋	蓋ヲ機体ニ對シ、逆ニ装着シ、アルが腐蝕、圧ニ依リ飛散ス	排出口後方横ニ装着ス	良 好

セ 繰繰 序内ニ装着 シアル時計	六爆 発筒
砲ノ分解ニ支障アリ	マニ三使用スルニ砲口前約百発ニシテ炸裂、起アリ、ソレガ爲発動機上面並ニカバシラ損傷シ特ニ滑油パイプ折損シ不時着ノ事案アリ
位置ヲ変更ス	厚サ四発ノ銅板ヲ爆発筒内下面ニ装着ス
良 好	良 好

別 紙 第三十

航空機関砲現地修理実施報告(第三飛行師團方面)

一 班員ノ編成 陸軍兵技少佐 真木文三郎 囑託 國戸政吉

一 員 井上三喜雄 同任 本昌信 同 大沢久雄

一 期 間 自四月一日 至五月九日

一 作業状況

一 実施經過

班長ノミ、廿一日照南ニ到着シ班員ハ二十日到着セルヲ以テ二十三日ヨリ吉田部隊ニ於テ作業ヲ開始シホ一〇三九挺ノ修理作業並射撃ヲ実施シ又八九式國機二挺ヲ點検シ二十七日修了ス此ノ間師團兵器部下士官及修理廠工員ヲ教育ス次テ五月一日バンドンニ至リ二日ヨリ四日間同地ニ於テホ一〇三九八挺及九九旋機ニ從テ修理莫ノ間關係者ヲ教育スホ一〇三ノ修理要領ハ舊式品ノ改修ヲ主トシ一部機能不十分ナル部品又部位ヲ修理スルニアリバンドンニ於テハ飛行團ノ希望ニヨリ取扱法修理法ノ教育ヲ主トシ修理砲ヲ其ノ教材トセリ

一 參考事項

一 現地兵器ノ現況

ホ一〇三最旧式ハ殆んど消耗シ盡シタルヲ以テ逐次取扱法技術ノ向上ト相俟テ戰隊ニ於ケル兵器ノ程度良好ナリ

八九國機及九九旋機共ニ機能良好ナリ

八九旋機々々上使用ニ耐ヘザル如シ速力ニ〇〇式旋機ト交換ヲ希望シアリ
彈藥之〇三ヲ甚心使用シアルハ最モ砲ヲ理解シアルモノト敬意ヲ表ス

ス整備班員ノ識能程度

ホ一〇三戰隊ニ於テハ甚心ノ結果砲ヲ相当ヨク理解シアルモ飛行場大隊
以下ノ識能ハ低劣ナリキ

ス其ノ他

(イ)予備品員数積桿關係等ニ関シテハ内地帰還後速カニ訂正意見ヲ提出
セントス

(ロ)内地ニ於ケル竣工検査ヲ綿密ニシ彈藥マ一〇三ノ完成ト相俟テ爾後ノ新
製品ニ於テハ故障絶無ナラシメントス現地ノ取扱モ基礎ヲ修得セルヲ
以テ更ニ向上スベシ

附表		一修理実施表		日/月	
	2/5	2/6 6/6	2/4 2/4	2/4 2/4	2/4 2/4
	"	バンドン 四一飛行場大隊	"	センバワン 順園野戦航空修理廠	作業地
	予 四	ホーロ 三	八九固機	ホーロ 三	銃砲名
	二	一八	三	九	挺数

ニ教育実施表

明	実施地	被教育者	項 目
28/11 — 29/11	センバン	修理廠員 二名	ホ一三修理法
26/11 — 27/11	リ	兵隊部曹我軍曹	ホ一三取扱法
2/6 — 2/6	バンドン	七五戦隊整備班員 全体	二四八九旋修理法
2/6 — 6/6	リ	二四龍大隊立五位長共四名	ホ一三取扱法
リ	リ	五九戦隊立五位長共一名	ホ一三取扱法修理法
リ	リ	四一龍大隊立五位長共一名	ホ一三取扱法

別表第一

水一〇三部品名並一箇達分				昭一七、二、二〇			
番	品	名	稱	頁	数	箇	要
10	子	受	止	五		止	共
11	子	受	止	二〇			
12	子	受	止	五〇			
13	子	受	止	五〇			
14	子	受	止	五〇			
15	子	受	止	五〇			
16	子	受	止	五〇			
17	子	受	止	五〇			
18	子	受	止	五〇			
19	子	受	止	五〇			
20	子	受	止	五〇			
21	子	受	止	五〇			
22	子	受	止	五〇			
23	子	受	止	五〇			
24	子	受	止	五〇			
25	子	受	止	五〇			
26	子	受	止	五〇			
27	子	受	止	五〇			
28	子	受	止	五〇			
29	子	受	止	五〇			
30	子	受	止	五〇			
31	子	受	止	五〇			
32	子	受	止	五〇			
33	子	受	止	五〇			
34	子	受	止	五〇			
35	子	受	止	五〇			
36	子	受	止	五〇			
37	子	受	止	五〇			
38	子	受	止	五〇			
39	子	受	止	五〇			
40	子	受	止	五〇			
41	子	受	止	五〇			
42	子	受	止	五〇			
43	子	受	止	五〇			
44	子	受	止	五〇			
45	子	受	止	五〇			
46	子	受	止	五〇			
47	子	受	止	五〇			
48	子	受	止	五〇			
49	子	受	止	五〇			
50	子	受	止	五〇			
51	子	受	止	五〇			
52	子	受	止	五〇			
53	子	受	止	五〇			
54	子	受	止	五〇			
55	子	受	止	五〇			
56	子	受	止	五〇			
57	子	受	止	五〇			
58	子	受	止	五〇			
59	子	受	止	五〇			
60	子	受	止	五〇			
61	子	受	止	五〇			
62	子	受	止	五〇			
63	子	受	止	五〇			
64	子	受	止	五〇			
65	子	受	止	五〇			
66	子	受	止	五〇			
67	子	受	止	五〇			
68	子	受	止	五〇			
69	子	受	止	五〇			
70	子	受	止	五〇			
71	子	受	止	五〇			
72	子	受	止	五〇			
73	子	受	止	五〇			
74	子	受	止	五〇			
75	子	受	止	五〇			
76	子	受	止	五〇			
77	子	受	止	五〇			
78	子	受	止	五〇			
79	子	受	止	五〇			
80	子	受	止	五〇			
81	子	受	止	五〇			
82	子	受	止	五〇			
83	子	受	止	五〇			
84	子	受	止	五〇			
85	子	受	止	五〇			
86	子	受	止	五〇			
87	子	受	止	五〇			
88	子	受	止	五〇			
89	子	受	止	五〇			
90	子	受	止	五〇			
91	子	受	止	五〇			
92	子	受	止	五〇			
93	子	受	止	五〇			
94	子	受	止	五〇			
95	子	受	止	五〇			
96	子	受	止	五〇			
97	子	受	止	五〇			
98	子	受	止	五〇			
99	子	受	止	五〇			
100	子	受	止	五〇			

[illegible]

別表第二

水一〇三部品南部調達分				昭一七、二、二〇	
番号	品名	編	買数	摘	要
	緩衝器ばね		甲二〇 乙二〇		
八	撃茎管室		五〇	ピン共	
	油圧損桿		五組	日式	
	保英子軸		三〇		

別表第三

㊦ 援行部品

名	編	買数	摘	要	名	編	買数	摘	要
受圧板		五			銃身保持環小ぬち		一〇		
全緊定ナット		三			カス筒		一		
全ばね		一〇			全旋回止		一		
被筒蓋小ぬち		一〇			全壁子鉄		八		

3010

名	種	員数	摘	要	名	種	員数	摘	要
ガス筒駐子割ピン	全	一〇			前方蓋板駐栓止	全	一		
保護当板 右	全	二			前方蓋板駐栓軸	全	四		
小槓桿駐子堅鎖長	全	二			前方蓋板駐栓軸	全	一		
尾筒側板補強板鎖長	全	四			前方蓋板駐栓軸	全	一		
保持筒底側板鎖長	全	四			前方蓋板駐栓軸	全	一		
前方蓋板駐栓板取	全	五			前方蓋板駐栓軸	全	一		
尾筒底板鎖	全	五			前方蓋板駐栓軸	全	一		
小槓桿駐子駐栓	全	一〇			前方蓋板駐栓軸	全	一		

遊	全	遊	全	遊	全	尾	全	遊	全	床	全
頭	石	頭	九	頭	別	拾	底	乙	割	端	拾
一	六	六	一	=	=	五	四	一	一	一	一
全	全	全	復	全	遊	全	全	連	全	保	全
短	軸	鐘	坐	銚	頭	止	乙	結	ば	英	子
五	五	五	=	六	=	三	一	一	一	五	一

名	稱	頁数	橋	要	名	稱	頁数	橋	要
全	鑓	五			臭包止耐板	下	二		
全	鑓	六			送彈子	五			
小損揮小口右	鑓	一			全	ばね	五		
大損揮	一				上	臂	一		
損揮板ばね	一				下	臂	九		
小口右	一				全	割ピン	二		
曲連結板坐板	二				軟	子	五		
握	一				碍	子前後共	九		把小口右共
臭包止耐板	一				碍	子	二		
全	鑓	一			碍	子ばね	三		
全	短	一			復型ばね検査器	一			
全	上	二			送	鉤	二		
引	鉄	二							

4070

別表第四

⑦ 携行部

昭和三十九

名	種	員数	備	要	名	種	員数	備	要
支	砲	駐	栓	一	同	子	受	石	下
現	砲	子	石	鬼	同	子	受	放	小
瓦	斷	部	筒	螺	蹴	子	瓦	一	一
銃	身	累	足	螺	全	石	一	一	一
全	〇	三	一	一	蹴	子	小	石	下
全	〇	一	一	一	銃	身	連	結	螺
尾	筒	上	板	小	全	石	一	一	一
尾	筒	下	板	小	全	石	一	一	一
同	子	受	放	小	銃	身	止	一	一
全	石	下	一	一	同	子	受	放	小
全	石	上	一	一	同	子	受	放	小

名	稱	頁數	摘	要	名	稱	頁數	摘	要
逆	鉤	一			門	箭石	一		
逆	鉤	五			抽	箭子	五		
展筒底	同子緩衝發射軸	五			全	江	一		
展筒底	同子緩衝發射軸	一			擊	卷	二		
全	はね	一			活	塞桿軸	五		
展筒底	同子緩衝發射軸	三			頑	桿	一		
全	はね	一			復	生	二		
展筒底	同子緩衝發射軸	一			裝	填架彈道止	二		
全	石	一			裝	填架彈道止	六		
全	同子緩衝發射軸	一			全	鉄	六		
全	同子緩衝發射軸	二			裝	填架彈道止	二		
全	同子緩衝發射軸	四			太	彈板	一		
門	筒	一			全	石	一		

6010

別表第五

雜品消耗品名目調查				胎一七三二五			
品名	目	數量	摘要	品名	目	數量	摘要
金	八吋	二		金	九吋	二	
金	一吋	一		金	七吋	一	
針	荒	一		組	針	五吋	

全	下	全	全	全	支	支	支
石	部	部	部	部	彈	彈	彈
二	還	還	還	還	駝	駝	駝
	元	元	元	元	駝	駝	駝
					駝	駝	駝
	全	全	全	全	全	全	上
	部	部	部	部	部	部	部
	還	還	還	還	還	還	還
	元	元	元	元	元	元	元
	一	四	四	四	二	二	二

OTTO

品名	目録	数量	摘要
全	特殊釘①A、B、C	一	
全	中平 一二吋	一	
全	荒平 一〇吋	二	
全	荒平 八吋	二	
全	中平 六吋	一	
全	荒角 一〇吋	一	
組釘	一號	一	
全	二號	一	
全	三號		
全	四號		
全	五號		
全	六號		
全	七號		
全	八號		
全	九號		
全	十號		
全	十一號		
全	十二號		
全	十三號		
全	十四號		
全	十五號		
全	十六號		
全	十七號		
全	十八號		
全	十九號		
全	二十號		
全	二十一號		
全	二十二號		
全	二十三號		
全	二十四號		
全	二十五號		
全	二十六號		
全	二十七號		
全	二十八號		
全	二十九號		
全	三十號		
全	三十一號		
全	三十二號		
全	三十三號		
全	三十四號		
全	三十五號		
全	三十六號		
全	三十七號		
全	三十八號		
全	三十九號		
全	四十號		
全	四十一號		
全	四十二號		
全	四十三號		
全	四十四號		
全	四十五號		
全	四十六號		
全	四十七號		
全	四十八號		
全	四十九號		
全	五十號		
全	五十一號		
全	五十二號		
全	五十三號		
全	五十四號		
全	五十五號		
全	五十六號		
全	五十七號		
全	五十八號		
全	五十九號		
全	六十號		
全	六十一號		
全	六十二號		
全	六十三號		
全	六十四號		
全	六十五號		
全	六十六號		
全	六十七號		
全	六十八號		
全	六十九號		
全	七十號		
全	七十一號		
全	七十二號		
全	七十三號		
全	七十四號		
全	七十五號		
全	七十六號		
全	七十七號		
全	七十八號		
全	七十九號		
全	八十號		
全	八十一號		
全	八十二號		
全	八十三號		
全	八十四號		
全	八十五號		
全	八十六號		
全	八十七號		
全	八十八號		
全	八十九號		
全	九十號		
全	九十一號		
全	九十二號		
全	九十三號		
全	九十四號		
全	九十五號		
全	九十六號		
全	九十七號		
全	九十八號		
全	九十九號		
全	一百號		

1111

全	リ マ	全	全	全	タ 7"	鋸 柄	全	全	全	全	全	全	特殊 鋸
D 6	D 4	D 7 P 1	D 6 P 1	D 4 D 1.76	D 3 D 0.6		② C 4 ヤ 1	〃 ヤ 3	〃 ヤ 2	〃 ヤ 2.2	〃 ヤ 1.6	③ C 1 ヤ 3	④ C 1 ヤ 2.4
一	一	一	一	二	一	二	一	一	一	二	一	二	一
取 引 具	板 金 廻 り	全 14 x 21 x 110	油 砥 角 27 長 200	全 D 7	全 D 6	全 D 5	振 錐 D 4	日 ノ 撃 釜 管 室 用	全 D 14	全 D 13.1	全 D 12	全 D 9	リ マ D 8.6
一	三	一	一	一	一	一	二	二	一	二	一	一	三

品目	数量	摘要	品目	数量	摘要
鉗子	一		ばね鋼板 厚1/4 長300	一	
金剛砂	少量		軟銅線 1/4 長1500	一	
手萬力	一		手袋(木綿)	四	
ナレ	一		雑用紙 一号	一〇〇	
栓 枝	六		全 二号	一〇〇	
センター	四		全 三号	一〇	
大がね	二		パラピン紙	五〇	
鏡	一				

別表第五十二

雜品消費品 南部調達分

品目	数量	摘要	品目	数量	摘要
針 中平 十時	一		特殊針	二七	
同 中丸 八時	一		針 極	三	
同 細平 八時	一		針 中	二	
同 五本組 中平	二		針 大	二	
同 同 中丸	二		針 小	二	
同 八本組 油平	一		針 大	二	
同 十本組 中丸	三		針 小	二	
同 同 中平	一		針 大	二	
同 同 油平	一		針 小	二	
同 同 情用中	一		針 大	二	
同 同 面鉄	一		針 小	二	

品目	数量	摘要	品目	数量	摘要
鑿	三		スバナ(イギリス)小	一	
鋸 及	一		折 尺(木製)	一	
リーマ(尾栓用)	二		手 萬力	一	
リーマ(裏蓋用)	二		鉗 子	二	
油 砥	一		栓 板	五	
同	二		センターボニチ	一	
手廻し孔明具	一		定 規(スコヤ)	一	
真 鍮 錠	一		研 磨 布	各五	
ね ぢ 廻し	二		真 鍮 棒	二	
同	一		製 彈	六	
同	一		工 具 嚢(革製)	一	

別表第六

木一〇三現地修理班

各務分原輸送支那三花送次員補(四欄)

昭和十七年三月六日

番号	名	編	買数	欄	要	番号	名	編	買数	欄	要
B72	実包駐子板(止共)		三五			F73	保莢子		甲一五 乙三五		
B40	門子受		三				復坐ばね(全)		一〇		
B42	撃茎駐鉤座桿		四〇			F11	駐鉤桿		七		
B31	送彈子槓桿		甲一五 乙一七			F2	撃茎管室		五〇		
	送彈子(全)		甲一〇 乙一五			F11	撃茎軋犯		三五		
D23	床尾軸栓(全ト共)		一〇			D10 F11	緩衝器ばね		甲一五 乙一五		
D14	座桿引鉄		一五			E1 E20	油圧槓桿		五組		旧式
D26	尾栓体		甲七 乙三								
	抽彈子(全)										

莫ノ二八九國機部品					
八九莫					
莫ノ三八九旋機部品					
五六莫					
莫ノ四工具類					
八魁					

修理作業経過表

自月 至月	作業日数	作業地	作業廠	銃・砲	挺数	所属部隊	摘 要
2/1 - 2/2	6	ドムアン	十九野修	ホーロ三	1	独飛47中	
2/2 - 2/3	1	チエンマイ	飛行場	ホーロ三	1	飛64戦	機上取付マ、作業
2/3 - 2/4	1	ドムアン	十九野修	八九旋	1		工員一名ヲ分遣ス
2/4 - 2/5	1	センバワン (昭南)	集團野修	ホーロ三	1	集團野修	
2/5 - 2/6	2			八九旋	1		
2/5	1	バンドン (九哇)	41飛大隊	テ四	2	飛76戦	
2/5 - 2/6	1			ホーロ三	18	飛67戦	15/10挺ハ機上取付マ、作業ス
註 ホーロ三… 12.7 ㎞固定機関砲 テ四… 九々式旋回機関銃							
班ノ修理能力ハ砲ノ程度ニ依リ毎日三挺乃至六挺ナリ							

教育指導経過表

期 間	教 育 地	項 目	人 員	摘 要
2/5	3/5	ドムアン修理廠	ホーロ三修理法 修理廠工員 二名	
3/11	13/11	4エンマ飛行場	ホーロ三修理法 飛61戦隊整備班	作業間、機会教育
2/5	7/11	ドムアン・4エンマ	ホーロ三修理法 南方軍航技部中隊軍曹	▽飛脚間行動ヲス
7/11	13/11	4エンマ飛行場	移動修理班工員一名	
23/11	26/11	セバワン修理廠	修理廠工員 二名	
26/11	27/11	"	ホーロ三取扱法 III 陸軍兵器部 普我軍曹	
2/5		バンドン飛行場	ホーロ三取扱法 飛76戦隊整備班	
2/5	5/5	"	ホーロ三取扱法 24 飛大隊立石伍長以下四名	砲ノ性能ヲ主トス
"	"	"	ホーロ三取扱法 飛67戦隊竹内曹長以下四名	修理法ヲ主トス
"	"	"	41 飛大隊山本軍曹以下二名	取扱法ヲ主トス

別表第八

0118

不口三原因別故障統計表

一 不 發	(1) 擊莖ばね衰損	17	四 尾 栓 運 動 障 害	(1) 尾栓包底部不良	2
	(2) 擊莖突出量不足	42		(1) 遊動体、軌	11
	(1) 擊莖軌	11		(2) 保莖子、滑走、軌	1
	(1) 擊莖駐鉤、鉤姿不良	6		(1) 擊莖駐鉤駐彈筒外突出	12
	(1) 擊莖駐鉤壓桿変歪	6		(1) 復座ばね衰損	2
二 送 彈 不良	(1) 送彈子、撥桿不良	17	五 折 損	(1) 抽彈子、軌	3
	(2) 碯子不良	32		(1) 加速子、後方鉄、吻合不良	8
	(1) 碯子ばね衰損	15		(1) 抽彈子、導板不良	10
三 抽 彈 不良	(1) 抽彈子、位置不良	10		(1) 二重装填防止、変形	2
	(2) 突包止不良	6		(1) 擊莖ばね受	1
	(1) 突包駐子板不良	6		(2) 擊莖、軌、把	1
	(1) 保莖子不良	1		(1) 抽彈子止	1
	(1) 抽彈子、昇導板不良	1	其、他		2

ホー口三交換部品表

撃茎ばね	16	抽彈子止	/
碯子ばね	18	保彈子受口ナット	/
撃茎駐鉤駐子(旧式)	12	逆鉤引鉄軸	/
実包駐子板(旧式)	6	油圧槓桿	/
撃茎管室	6	受圧板蓋止ねじ	/
撃茎金備(旧式)	11	抽彈子全備	/
復撃ばね全備	3	撃茎転把	/
撃茎駐鉤圧桿	3	撃茎駐鉤	/
保莢子	3	逆鉤	/
碯子(旧式)	3	逆鉤軸	/
尾栓	1		
送彈子槓桿	1		
撃茎	1		

102

別表第十一

0121

十二機七固定機関砲 現地修理調書 (第五飛行集団)						
日/月	修理場所	砲番	所部隊名	故障	処置	交換品摘要
1/3	野十九航	甲 58	独 飛 42 中隊	送彈子機不良 實際ニヨル送彈不良	新品ト交換	送彈子機 実包リム付撃止
				実包駐子板不良 実基後桿後部斜面 摩耗ニヨリ機能不良	新品ト交換	実包駐子板 撃止
				撃止機能不良	新品ト交換	撃止全備
				駐鉤圧桿機能不良	屋栓体実基後桿 調整	
				遊動体 軋リ	曲リヲ矯正シ 運動ヲ調整ス 砲身先部及後部ノ 軋リ除去	
				保英子ノ滑走道路 抵抗ニヨリ機能不良	屋栓体各部軋リ除去 滑走匡ノ保英子道路ヲ 拡大ス	
				駐鉤駐子 屋筒外突 出ノ傾向アリ	屋栓体駐子室拡大 新品交換	駐鉤駐子
				錐子機能不良	先部9機ニ送彈新削ス	
				受圧板越スバノ経 始不良	口幅ヲ千耗鋸削	

日/月	修理台	砲番	所部隊名	故障	置換品	摘要
2/5	第十丸航	乙160	独飛中隊	抽弾子止折損 撃莖機能不良	尾栓体抽弾子室に刻リ 新品と交換 抽弾子止 撃莖後部経路にス	突包が射撃せず
					尾栓体撃莖後部室に刻リ	
					撃莖は新品と交換 撃莖は旧	
					撃莖突出量2.4に増大	
				撃莖は旧受飲損	新品と交換 撃莖は旧	
				弾子機能不良 保英5ノ滑走回路に損 損=0.1機能不良	先部9粒3.2粒研削 滑走区、保英5通台 に拡大ス	
				突包駐子板不良	新品部品と交換 突包駐子板	突包駐子板止
2/5	第十丸航	甲126	独飛中隊	撃莖機能不良	撃莖後部経路にス 尾栓体撃莖後部室に刻リ	
					撃莖は新品と交換 撃莖は旧	
					撃莖突出量2.4に増大	

0122

				砲身ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
				駐鉤圧桿機能不良	曲リヲ矯正シ運動ヲ 規整ス		
				保莢子ノ滑走区通路 抵抗ニヨル閉鎖不良	滑走区保莢子通路 拡大ス		
				碍子ノ機能不良	先部ノ粒ヲ2粒研削ス		
				突包止ノ機能不良	突包止ノ間ヲセバメル	復座ばね 全備	
28/3	第18航	甲 47	獨飛 47 中隊	莢莖機能不良	莢莖後部ノ先部ノ径 ヲ小ニシ		突包ナキヲメ 射裏セズ
					尾栓部ノ莢莖後桿室 ヲ刷ル		
					莢莖ばね部品ト交換	莢莖ばね	
				遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体ノ各部ノ乳 除去		
				駐鉤圧桿頭部形状 不良	新品ト交換運動ヲ 規整ス	莢莖駐鉤 圧桿	
				保莢子ノ滑走区通路 抵抗ニヨル閉鎖不良	保莢子ノ頭部研削		
				碍子ノ機能不良	先部ノ粒ヲ2粒研削ス		
					碍子ばねノ強キモノト 交換	碍子ばね	

日/月	修所 理名	砲 巻	所 部 隊 名	故 障	処 置	交 換 部 品	備 考
				突包止ノ機能不良	突包止ノ間ラセバノル		
				送弾子積桿ニヨル 送弾不良	送弾子積桿ノ倒リヲ 矯正		
				突包駐子板不良	新式部品ト交換	突包駐子板 全止	
				駐鉤駐子尾筒外ニ突 出ノ傾向アリ	尾栓体駐子室拡大ニ 対応ト交換	駐鉤駐子	
				受圧板ビスパナ経 始不良	ロウワ4粒鍛縮		
25/3	第18 野航	乙110	獨逸 47中隊	曳莖機能不良	曳莖後桿ノ先端ノ経ヲ 小ニス		突包ナキ為 射撃要セス
					尾栓体ノ曳莖後桿室 ヲ削ル		
					曳莖ノ突包室ヲ24ニ増 大		
				駐鉤圧桿頭部形状 不良	新品ト交換シ運動ヲ 規整ス	曳莖駐鉤 圧桿	
				保葉子ノ調整電通路 抵抗ニヨル閉鎖不良	調整電ノ保葉子通路 ヲ拡大ス		
				碇子ノ機能不良	先端ノ純ヲ2粒研削		
				突包駐子板不良	新式部品ト交換	突包駐子板 全止	
				駐鉤駐子尾筒外ニ突 出ノ傾向アリ	尾栓体駐子室ヲ拡大 新品ト交換	駐鉤駐子	

0124

日	修所	理名	砲番	所隊名	故障	修理	要	摘
						底栓体、管蓋修理完了		
					保英子、滑走道路 振机ニヨリ、機不良	管蓋、浸水量、2.4増大		
					研子、機能不良	保英子、管口より研削		
					実色止、機能不良	先部、管口より研削		
					抽排子、尾端倒板ヤリニ ヨリ機能不良	実色止、間ッセバレル		
						抽排子、一部研削		
						送鉤引張部		
2/10	銃子丸航	乙36	独飛隊		管蓋機能不良	管蓋後視部、研削完了	実色止、管蓋修理完了	
						管蓋、浸水量、2.4増大		
					遊動体、軌リ	砲身先部、後部軌除去		
						底栓体、各部軌除去		
						滑走道、各部軌除去		
					右部子、機能不良	先部、管口より研削 研削は、強度不足、交換	研子、試験	

0126

0127

				駐鉤駐子尾箇外一尾栓体ノ駐子量ヲ減 突出ノ傾向あり	尾栓体ノ駐子量ヲ減 大ニ減品ト交換	駐鉤駐子
				突包駐子板不良	新式部品ト交換	突包駐子板 突包駐子板止
				抽 彈 不 良	抽彈子爪部後方斜 面ヲ研削	
					抽彈子上昇準板上 方面ヲ研削	
				尾栓体底面ト臼子 上面トノ剋	臼子ノ上面ヲ研削	
				受圧板蓋スバウ 経始不良	口幅ヲタね鍛縮	
30/3	第18航	乙 112	福 飛 47 中隊	更基機能不良	更基後桿ノ各部ノ 磨ヲ小ニス	突包ノキタメ 射重セズ
					尾栓体更基後桿室 ヲ剋ル	
					更基体板新部品ト交 換	更基体板
					更基ノ突出量ヲ2.4 ニ増大	
				駐鉤圧桿頭部形状 不良	新品ト交換 運動ヲ調整	更基駐鉤 圧桿
				碍子ノ機能不良	先部ヲタねヲ研削	
				突包駐子板不良	新式部品ト交換	突包駐子板 突包駐子板止
				抽 彈 不 良	抽彈子上昇準板上 方面ヲ研削	

日/月	修理所	砲番	所管部隊名	故障	処置	交換部品	摘要
3/4	4工ニマ 飛行場	甲190	飛行 隊	虫莖機能不良	新品ト交換 虫莖ト交換	虫莖	
				遊動体ノ乳	乳ノ先部及後部ノ 乳除去		
					乳ノ各部ノ乳 除去		
					滑走区ノ各部ノ乳 除去		
				保莖子ノ純ニヨリ 機能不良	新品ト交換	保莖子	
				虫莖管風鉄損	新品ト交換	虫莖管風	
3/4	4工ニマ 飛行場	乙261	飛行 隊	遊動体ノ乳	乳ノ先部及後部ノ 乳除去		
					乳ノ各部ノ乳 除去		
					滑走区ノ各部ノ乳 除去		
				保莖子ノ滑走区通路 抵抗ニヨリ開鎖不良			
				抽弾不良	抽弾子ノ先部後部斜部 ヲ削削		
3/4	4工ニマ 飛行場	甲188	飛行 隊	虫莖機能不良	虫莖後部ノ先部ノ純 ニヨリ		
					虫莖ノ突出量9.23ニ 増大		

					撃撃体新品ト交	撃撃体
					撃撃先頭形状修正	
				運動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳除去	
					底栓体ノ右部ノ乳除去	
					滑走車ノ門子追進油ノ乳除去	
				撃撃銃鉤部ノ形状不良	撃撃銃鉤ノ鉤部ヲ鉤前修正	
				加速子ノ溝形状不良	加速子ノ溝ヲ削	
				傾部鉄ノ加速子ト吻合部不良	傾部鉄ノ吻合部形状修正	
				底栓体集積挿入部形状不良	底栓体ノ集積挿入部一部修正	
3/4	千石マイ飛行場	乙 120	飛行機	撃撃機能不良	撃撃後桿ノ先部ノ径ヲ小ニス	
					底栓体撃撃後桿径ヲ削ル	
					撃撃ノ突出量ヲ2.3ニ増大	
				運動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳除去	
					底栓体ノ各部ノ乳除去	

日 月	修 理 者	砲 番	所 部 機 名	故 障	處 置	交 換 品	摘 要
					滑走区 / 各部 / 氣 ヲ除去		
				保換子 / 滑走区通 路抵抗此間鎖不良	滑走区 / 保換子通 路ヲ擴大		
					滑走区 / 後壁片用軸 道路ヲ擴大		
				擊發後半鉤部 / 形 狀不良	鉤部ヲ鉤開修正		
				擊發後半鉤部 / 形 狀不良	鉤部ヲ鉤開修正		
				和進子 / 滑形狀不良	後方鉄トアヲII部 ヲ鉤開		
				後方鉄 / 和進子引物 合部不良	後方鉄 / 場合部形 狀修正		
1/4	4 出 2 2 1 飛 行 場	乙 236	飛 行 機	擊發後半鉤部不良	擊發後半 / 先部 / 後部 / 小ス		
					後壁片 / 擊發後半 部ヲ剝ル		
					擊發 / 突出量ヲ2.4 ニ擇火		
				遊動体 / 軋	砲身 / 先部及後部 / 氣除去		
					尾栓体 / 各部 / 氣 除去		
					滑走区 / 各部 / 軋 除去		

0130

				駐砲隊大、小、何外大	駐砲隊大、小、何外大	駐砲隊大、小、何外大	駐砲隊大、小、何外大
				火ノ鏡同了り、	火ノ鏡同了り、	火ノ鏡同了り、	火ノ鏡同了り、
				送弾子下庄送り機	送弾子下庄送り機	送弾子下庄送り機	送弾子下庄送り機
3/4	4工ミイ 飛 行 場	甲 116	飛 行 機	撃基機能不良	撃基機能不良	撃基機能不良	撃基機能不良
					撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ
					撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ
					撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ
				遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳
					遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳
					遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳
					遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳
				送弾子下庄送り機	送弾子下庄送り機	送弾子下庄送り機	送弾子下庄送り機
3/4	4工ミイ 飛 行 場	乙 182	飛 行 機	撃基機能不良	撃基機能不良	撃基機能不良	撃基機能不良
					撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ
					撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ	撃基後部ノ先部ノ
				遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳
					遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳
					遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳	遊 動 係ノ乳

日 月	修 理 場	砲 番	所 隊 名	故 障	處 置	交 換 品	摘 要
				保換多、滑走巨通路 接軌不良	保換多、機部研削		
				碍子、機能不良	先部多、機部研削		
4/4	4エニマイ 飛行場	甲 136	飛行 隊	遊動体、軌	砲身、先部及後部、 乳除去		
					尾栓体各部、乳除去 滑走巨各部、乳除去		
				保換多、磨耗=リ機 能不良	新品ト交換	保換多	
				加運多、機能不良	機能調整		
4/4	4エニマイ 飛行場	乙 168	飛行 隊	遊動体、軌	砲身、先部及後部、 乳除去		
					尾栓体各部、乳除去 滑走巨各部、乳除去		
				送弾多、積桿=ヨル 送弾不良	ガリヲ矯正ス		
				碍子、機能不良	新品ト交換	碍子	
				保換多、磨耗=ヨル 機能不良	新品ト交換	保換多	
4/4	4エニマイ 飛行場	甲 111	飛行 隊	遊動体、軌	砲身、先部及後部、 乳除去		
					尾栓体各部、乳除去 滑走巨各部、乳除去		

0132

4/4	42-21 飛行場	乙 236	飛行場	遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳除去		
					尾枢体各部ノ乳除去		
				送弾子機構ニヨル送弾不良	滑走車各部ノ乳除去		
4/4	42-21 飛行場	甲 189	飛行場	撃基機能不良	管リヲ矯正ス		
					撃基後桿ノ先部ノ径ヲ小ニス		
					尾枢体ノ撃基後桿ノ径ヲ小ニス		
					撃基ノ新品ト交換	撃基出肉	
					撃基ノ補足ス		
					撃基先頭ノ形状修		
				遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳除去		
					尾枢体各部ノ乳除去		
				保換子ノ滑走車通路板ニ至ル隙間不良	滑走車ノ保換子通路板大		
				保換子機能不良	先部ノ乳ヲ研磨削		
				撃基後桿鉤部ノ形状不良	鉤部ヲ研削修正		
				撃基駐鉤部ノ形状不良	鉤部ヲ研削修正		
				加送子ノ構造不良	後方鉄ノ乳部ヲ研削		

日 月	機 種 名	砲 造	新 機 名	故 障 箇 所	要 要
				後方鉄ノ吻合部形 状不良	
4/4	4エン2イ 飛行場	乙 233	飛行機 14	撃基機能不良	撃基後桿ノ先部ノ怪 ヲ小ニス
					尾栓体ノ撃基後桿壁 ヲ削ル
				遊動体ノ軋	後身ノ先部及後部ノ 軋除去
					尾栓体ノ各部ノ軋 除去
				保板ヲノ滑走通路 抵抗ニヨリ閉鎖不良	滑走路ノ保板ヲ通路 拡大
				碍子機能不良	先部ノ耗以耗研削
				撃基後桿鉤部ノ形 状不良	鉤部ヲ削削修正
				撃基鉤部ノ形 状不良	鉤部ヲ削削修正
				如運子ノ溝形状不良	後方鉄トアール部ヲ 削削
				送彈子橋桿ノアールヲ削 彈子下座ノ保板機能不良	送彈子橋桿ノ一部ヲ 削削
4/4	4エン2イ 飛行場	乙 256	飛行機 64	撃基機能不良	撃基後桿ノ先部ノ怪 ヲ小ニス
					尾栓体ノ撃基後桿壁ヲ 削ル

0134

					撃撃実効力2.4=増大	
				遊動体ノ軌	砲身ノ先部及後部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	
				遊撃子機機能不良	砲身各部ノ軌除去	
				砲身機能不良	砲身各部ノ軌除去	
				砲身機能不良	砲身各部ノ軌除去	
				砲身機能不良	砲身各部ノ軌除去	
				砲身機能不良	砲身各部ノ軌除去	
4/4	クエーサー 飛行場	乙 238	飛行場	砲身機能不良	砲身各部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	
				遊動体ノ軌	砲身ノ先部及後部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	
				砲身機能不良	砲身各部ノ軌除去	
				砲身機能不良	砲身各部ノ軌除去	
4/4	クエーサー 飛行場	乙 252	飛行場	遊動体ノ軌	砲身ノ先部及後部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	
					砲身各部ノ軌除去	

日	機名	砲番	所隊	故障	處置	要
				床尾配給不良	ゆりり矯正	
5/4	千工ミイ 飛行場	甲 116	飛 64 行 戦	撃装機能不良	底栓付・撃装後押込 引ル 撃装ノ出量ヲ不十分 大	
				遊動体ノ軌	砲身ノ先部及後部ノ 軌除去	
					底栓体各部ノ軌除去 滑走匡各部ノ軌除去	
				抽選不良	抽選子孔部後ヲ斜 面ニ金削ス	
				送選子機ノアタルメ抽 選子下圧は粗機能不良	送選子機ノ一部金削	
				旧式撃装後押ニヨリ機 能不良	新品ノ交換	撃装後押 全備
5/4	千工ミイ 飛行場	甲 178	飛 64 行 戦	遊動体ノ軌	砲身ノ先部及後部ノ 軌除去	
					底栓各部ノ軌除去 滑走匡各部ノ軌除去	
5/4	千工ミイ 飛行場	乙 202	飛 64 行 戦	遊動体ノ軌	砲身ノ先部及後部ノ 軌除去	
					底栓体各部ノ軌除去 滑走匡各部ノ軌除去	
5/4	千工ミイ 飛行場	甲 186	飛 64 行 戦	遊動体ノ軌	砲身ノ先部及後部ノ 軌除去	

0136

					尾除体各部ノ乳除去 滑走匡各部ノ乳除去	
6/4	テエンマイ 飛行場	乙247	飛行 6/4 戦	駐鉤駐子尾筒外突出 ノ傾向アリ	尾除体駐子室ヲ拡大 新品ト交換	駐鉤駐子
				二重送弾防止機能不良	曲リヲ矯正	
				床尾駐栓不良	曲リヲ矯正	
				旧式曳基ニシテ機能不良	新品ト交換	曳基後桿 全備
						復元ばね 全備
6/4	テエンマイ 飛行場	甲170	飛行 6/4 戦	撃基機能不良	曳基後桿先端径ヲ小ス	
					尾除体ノ曳基室ヲ修リル 曳基ばね新品ト交換	撃基ばね
					撃基突出量ヲ2.4ニ増大	
				遊動体ノ乳	砲身先端後部ノ乳除去 尾除体各部ノ乳除去 滑走匡各部ノ乳除去	
6/4	テエンマイ 飛行場	乙251	飛行 6/4 戦	撃基機能不良	曳基後桿先端径ヲ小ス	
					曳基突出量ヲ増大	
				遊動体ノ乳	砲身先端後部ノ乳除去	

日/月	修所 理名	砲 臺	所 隊	故 障	處 置	交 換	備 考
					尾輪体各部ノ乳除去 滑走基各部ノ乳除去		
6/4	千工ニマイ 飛行場	甲 164	飛 64 行 戦	送 鈎ノ機能不良	送 鈎体ノ乳除去		
"	"	乙 248	"	響 基ノ機能不良	響 基後部ノ乳除去 響 基突出量2.4=増大		
				游 動体ノ乳	砲身先部後部ノ乳除去		
					尾輪体各部ノ乳除去 滑走基各部ノ乳除去		
6/4	千工ニマイ 飛行場	乙 241	飛 64 行 戦	響 基ノ機能不良	響 基後部ノ乳除去 尾輪体響 基後部ノ乳除去 響 基突出量2.4=増大		
				游 動体ノ乳	砲身先部後部ノ乳除去 尾輪体各部ノ乳除去 滑走基各部ノ乳除去		
				送 鈎ノ機能不良	送 鈎体ノ乳除去		
6/4	千工ニマイ 飛行場	甲 175	飛 64 行 戦	響 基ノ機能不良	響 基後部ノ乳除去		

0138

111

					尾栓体異装後桿室 ヲ剷ル		
					異装ノ突出量ヲ2.4=		
					増大		
				遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走匡各部ノ乳除去		
				抽弾不良	抽弾子爪部後方斜面 ヲ針削		
				加進子ノ純ニ乳機 能不良	交換ス		
6/4	紅心 飛行場	甲ノ24	飛行 機	遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走匡各部ノ乳除去		
6/4	紅心 飛行場	乙ノ24	飛行 機	遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走匡各部ノ乳除去		
6/4	紅心 飛行場	乙ノ24	飛行 機	遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走匡各部ノ乳除去		
				抽弾不良	抽弾子ノ上方準板前 方部ヲ研削		
				油圧機構不良	パッキン部品ト交換	油圧機構	

0140

日/月	修理所	砲 番	所 隊 名	故 障	処 置	交 換 品	摘 要
7/4	4エニマイ 飛行場	乙200	飛行 隊	要茎機能不良	要茎後桿全備ト交換	要茎後桿 全備	
				遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走匡各部ノ乳除去		
				床尾壁栓不良	曲リヲ矯正		
7/4	4エニマイ 飛行場	甲170	飛行 隊	遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走匡各部ノ乳除去		
				要茎機能不良	要茎後桿ノ先部ノ栓 ヲ小ニス		
					尾栓体ノ要茎後桿栓 ヲ削ル		
					要茎はねヲ交換補 足ス	要茎はね	
					要茎ノ突出部ヲ2.4ニ 増大		
				碯子機能不良	碯子新品ト交換 碯子はね新品ト交換	碯子 碯子はね	
7/4	4エニマイ 飛行場	乙202	飛行 隊	要茎機能不良	要茎後桿ノ先部ノ栓 ヲ小ニス		
					要茎ノ突出部ヲ2.4ニ増大		

0141

				遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部 尾栓体各部ノ乳除去		
					滑走道各部ノ乳除去		
				送弾子横桿ニシテ 送弾不良	送弾子横桿ノ曲リヲ 修正		
				送弾子横桿ノバタルヲ 抽弾子ノ下底ノ乳除去	送弾子横桿ノ一部ヲ 削		
				抽弾子ノ機能不良	新シク鉄蓋	反圧板蓋 止ねん	
				抽弾子ノ爪部鉄板	新品ト交換	抽弾子全 備	
7/4	組ンバイ 砲行場	乙 143	砲 84戦	遊動体ノ乳	砲身先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走道各部ノ乳除去		
				後方鉄ノ加蓋子トノ 合部不良	後方鉄ノ両台部形状 修正		
				要蓋機能不良	要蓋後桿ノ先部ノ径ヲ 小ニス		
					尾栓体ノ要蓋後桿蓋 ヲ削ル		
					要蓋ノ要蓋蓋ヲ2.4ニ 増大		
7/4	組ンバイ 砲行場	乙 241	砲 84戦	要蓋機能不良	要蓋後桿ノ先部ノ径 ヲ小ニス		
					要蓋ノ要蓋蓋ヲ2.4ニ増大 要蓋ノ新品ト交換	要蓋は板	

日 月	修 理 名	砲 番	所 部 隊 名	故 障	処 置	交 換 品	摘 要
7/4	4エニマイ 飛行場	甲101	飛行 隊	遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ 乳除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走区各部ノ乳除去		
7/4	4エニマイ 飛行場	乙260	飛行 隊	要基機能不良	要基後桿先部ノ乳 小ニス		
					尾栓体ノ要基後桿望 可削ル		
					要基体ノ新品ト交換 シ補足ス	要基体ノ乳	
				遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走区各部ノ乳除去		
				加速子ノ形状不良	後才鉄トアル部ヲ削 削		
				抽弾子準確機能不 良	後部ヲ2純研削		
8/4	4エニマイ 飛行場	甲102	飛行 隊	遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走区各部ノ乳除去		
8/4	4エニマイ 飛行場	乙120	飛行 隊	遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走区各部ノ乳除去		

0142

十二粒七固定機関砲 現地修理調査								(第三飛行集團)	
日 月	修 所 名	砲 番	所 隊 名	故 障	処 置	交 換 部	摘 要		
23/4	セニバウ 飛行場	乙 44	第三飛行 野戦航空隊	砲子機能不良	先部ノ粒ヲ2粒研削				
				受圧板蓋経絡不良	先部兩側ノ粒ノ深ヲ二 ツ削				
				受圧板蓋スパナ経絡 不良	口幅ヲ4粒鍛縮ス				
				曳莖軋把切損	新品ト交換	曳莖軋把			
				曳莖駐鉤缺損	新品ト交換	曳莖駐鉤			
23/4	セニバウ 飛行場	乙 32	第三飛行 野戦航空隊	曳莖機能不良	曳莖後桿先部ノ経ヲ 小ニス				
					曳莖ノ突出量ヲ2.5ニ 増大				
				保莖子ノ滑走区通路 抵抗ニヨル閉鎖不良	保莖子ノ先端ヲ研削 滑走区ノ保莖子通路拡大				
				砲子機能不良	砲子ノ先部ノ粒ヲ2粒 研削				
					砲子ノ反ね強キモノト交 換	砲子反ね			
				駐鉤駐子尾筒外ニ突 然ノ傾向	尾栓体駐子室拡大 新品ト交換	駐鉤駐子			
				抽弾子準板機能不良	後部ヲ2粒研削				

日/月	修理 場所	砲 番	所 部 隊 名	故 障	処 置	交 換 品	摘 要
				受圧板蓋経始不良	先部両側ワニ深サニ 釘削		
						逆鉤全備 逆鉤軸	
23/4	センバワン 飛行場	乙 67	才三飛行 野戦航空	要蓋機能不良	要蓋後桿先部ノ径ヲ 小ニス		
					尾栓体ノ要蓋後桿室 ヲ削ル		
					要蓋は収補足 要蓋ノ突出部ニ増大		
				遊動体ノ乳	砲身ノ先部及後部ノ乳 除去		
					尾栓体各部ノ乳除去 滑走区各部ノ乳除去		
				碍子機能不良	碍子ノ先部ノ乳ヲ2枚研削 碍子ハね強キモノ交換	碍子1枚	
				受圧板蓋経始不良	先部両側ワニ深サニ 釘削		
23/4	センバワン 飛行場	乙 175	才三飛行 野戦航空	要蓋機能不良	要蓋後桿先部ノ径ヲ 小ニス		
					尾栓体ノ要蓋後桿室 ヲ削ル		
				遊動体ノ乳			

0145

					尾栓体各部取除		
				碍子機能不良	先部ノ絶ヲ2枚研削		
				抽弾子單板機能不良	後部ヲ2枚研削		
24/4	セムバウン 飛行場	乙 33	外三飛行 野戦航修	薬莖機能不良	薬莖後桿先部ノ径ヲ 小ニス		
					尾栓体ノ薬莖後桿室 ヲ削ル		
					薬莖ノ突出量ヲ小ニシテ増 大		
				弾莖子ノ滑走色面路振 抗ニヨル開鎖不良	弾莖子先頭ヲ研削		
				碍子機能不良	先部ノ絶ヲ2枚研削		
				駐鉤駐子思簡外欠 少ノ傾向	尾栓体ノ駐子空振大 新品ト交換	駐鉤駐子	
				抽弾子單板機能不良	後部ヲ2枚研削		
				薬莖管坐鉄損	新品ト交換	薬莖管坐	
				受圧板蓋端始不良	先部兩側ヲ2枚ノ深ガニ 研削		
24/4	セムバウン 飛行場	乙 38	外三飛行 野戦航修	薬莖機能不良	薬莖後桿先部ノ径ヲ 小ニス		
					尾栓体ノ薬莖後桿室 ヲ削ル		

日 月	修 所	理 名	砲 番	所 部 隊 名	故 障	処 置	交 部 換 品	摘 要
						要 塞 ノ 突 出 量 ヲ 2 分 ニ 増 大		
					遊 動 体 ノ 乳	尾 栓 体 各 部 ノ 乳 除 去 滑 走 面 各 部 ノ 乳 除 去		
					碍 子 機 能 不 良	碍 子 ノ 先 部 ノ 乳 ヲ 脱 離 研 削		
						碍 子 ノ 乳 強 キ モ ト 交 換	碍 子 ノ 乳	
					和 彈 子 ノ 尾 筒 側 板 セ リ ニ ヨ リ 機 能 不 良	和 彈 子 ノ 一 部 ノ 削 削		
					皮 圧 板 ノ 機 能 不 良	先 部 ノ 側 板 ヲ 2 分 ニ 削 削		
24 / 4	セ ン バ ワ ン 飛 行 場	乙 分	第 三 飛 行 隊	第 三 飛 行 隊	要 塞 機 能 不 良	要 塞 機 能 先 部 ノ 乳 ヲ 小 ニ ス		
						尾 栓 体 各 部 ノ 乳 ヲ 脱 離 研 削		
						要 塞 機 能 先 部 ノ 乳 ヲ 小 ニ ス		
						要 塞 機 能 先 部 ノ 乳 ヲ 小 ニ ス		
						要 塞 機 能 先 部 ノ 乳 ヲ 小 ニ ス		
					遊 動 体 ノ 乳	遊 動 体 ノ 乳 先 部 ノ 乳 ヲ 脱 離 研 削		
						尾 栓 体 各 部 ノ 乳 除 去 滑 走 面 各 部 ノ 乳 除 去		
					碍 子 機 能 不 良	碍 子 ノ 先 部 ノ 乳 ヲ 脱 離 研 削		

					碍子ばね強キレト交換	碍子ばね
				駐鉤駐子尾筒外突出・傾斜	尾栓体・駐子蓋板大新品ト交換	駐鉤駐子
				抽彈子半板機能不良	後部ヲハ乾研削	
				受圧蓋経始不良	先端部前側ヲハ乾・深サニ鈔削	
1	同上	甲	同上	擊込機能不良	擊込後彈先端部怪ヲハ乾・深サニ鈔削	
					尾栓体・擊込後彈ヲハ乾・深サニ鈔削	
					擊込・突出蓋のハ乾・深サニ鈔削	
				遊動体・乳	尾栓体各部・乳除去・滑動部各部・乳除去	
				碍子機能不良	碍子先端部ノハ乾ヲハ乾研削	
					碍子ばね強キレト交換	碍子ばね
				駐鉤駐子尾筒外突出・傾斜	尾栓体・駐子蓋板大新品ト交換	駐鉤駐子
				抽彈子半板機能不良	後部ヲハ乾研削	
				受圧板蓋経始不良	先端部前側ヲハ乾・深サニ鈔削	
				尾栓体包底面起縁溝陥凹ノ機能不良	鋭鉤ヲハ乾・深サニ鈔削	

0147

日/月	修理名	砲番	所部隊名	故障	処置	交換品	摘要
2/5	バン 41飛天	乙 31	砲59 行戦	撃基機能不良	撃基後部先部ノ径ヲ 小ニス 尾栓体撃基後部ノ 割ル		
					撃基ノ突出量ヲ25ニ増大 撃基成ルヲ補正		
				碍子機能不良	碍子先部ノ径ヲ大ニ研削 碍子成ル強ク交換	碍子ボね	
				送弾子機ノヨル 送弾不良	曲リヲ矯正		
				受圧板蓋径始不良	先部所ノ径ヲ2粒ノ ニ針削		
				受圧板蓋ノ径始 不良	口幅1.4粒ノ鍍鋅		
1	同上	乙 53	同上	撃基機能不良	撃基後部先部ノ径ヲ 小ニス 尾栓体撃基後部ノ 割ル		
					撃基成ル新品ノ交換 撃基ノ突出量ヲ25ニ増大	撃基ボね	
				碍子機能不良	碍子先部ノ径ヲ大ニ研削 碍子成ル強ク交換	碍子ボね	
				撃基管蓋缺損	新品ノ交換	撃基管蓋	
				送弾子機ノヨル 送弾不良	曲リヲ矯正		

0148

				抽彈子導板機能不良	後部ヲニ耗研削		
				突包止機能不良	突包上ノ間ヲセバメル		
				受圧板最終不良	先端側ニ耗深ハ研削		
1/5	バントン 4/1 艦大	乙 60	艦 行 5 P 戦	搬送機能不良	搬送後押先部ノ怪ハス		
					尾栓体ノ搬送後押室ヲ削ル		
					搬送バネ交換 補足 搬送バネノ力増大	搬送ばね	
				砲子機能不良	砲子先部ヲ耗ニ耗研削 砲子ばねニ耗モハ交換	砲子ばね	
				保英子ノ滑走ニ通路 拡充ニ依ル閉鎖不良	滑走ニ保英子通路各拡大		
				抽彈子導板機能不良	後部ヲニ耗研削		
				送彈子機ノ送彈後	此ヲ修正		
				駐鉤駐子居外ノ突込ハ弱	尾栓体ノ駐子室拡大 新品ト交換	駐鉤駐子	
				受圧板最終不良	先端側ニ耗深ハ研削		
"	全 上	乙 135	全 上	搬送機能不良	搬送後押先部ノ怪ハス 搬送バネ交換 補足 搬送バネノ力増大	搬送ばね	

日/月	修理名	砲番	所部隊番号	故障	置	交換部	摘要
				運動体ノ刺	砲身先部及後部乳除去		
					尾栓体各部乳除去		
				砲子機能不良	先部ノ乳ヲ乳研削 砲子はね交換	砲子はね	
				保英子ノ滑走通路各振 抗ニコル閉鎖不良	滑走区ノ保英子通路拡大		
				送弾機構ニ送弾不良	曲リヲ矯正		
"	全上	Z 46	全上	撃基ノ機能不良	撃基後部先部ノ保コハス 撃基はね交換 補足 撃基ノ突出量ヲ26ニ増大	撃基はね	
				砲子機能不良	先部ノ乳ヲ乳研削 砲子はね交換	砲子はね	
				保英子ノ滑走通路各振 抗ニコル閉鎖不良	滑走区ノ保英子通路拡大		
				撃基管室ノ欠損	新品ト交換	撃基管室	
				送弾機構ニ送弾不良	曲リヲ矯正		
				受圧板ノ終始不良	先部両側ノ乳ノ研削		
"	全上	Z 161	全上	撃基機能不良	撃基後部先部ノ保コハス		

0150

				抽彈子準板機能不良	後部ヲ2粒研削		
				速彈子機桿ノ外ハ抽彈子正板の機能不良	速彈子機桿一部ヲ鈔削		
〃	同上	乙 155	同上	密基機能不良	尾栓体、密基後桿室ヲ削ル		
					密基の交換補正 密基、突出量ヲ2.5増大	密基の	
				碍子機能不良	先部9粒ヲ2粒研削 碍子の交換	碍子の	
				抽彈子準板機能不良	後部ヲ2粒研削		
〃	飛行場	乙 234	飛行機	抽彈不良	抽彈子外側部斜 面ヲ鈔削		
〃	同上	乙 254	同上	密基管室破損	新品ト交換	密基管室	
〃	同上	乙 227	同上	密基機能不良	密基後桿、先部、怪 ヲ削ル		
					尾栓体、密基後桿室 ヲ削ル		
					密基、突出量ヲ2.5増大		
				抽彈不良	抽彈子外側部内側ヲ 鈔削		
〃	同上	甲 179	同上	突包上機能不良	突包止ノ間ヲセバム		
〃	同上	乙 222	同上	密基機能不良	密基、突出量ヲ2.5増大		

日/月	修 理 者	砲 番	所 隊 名	故 障	処 置	寄 換 品	摘 要
11/5	バンドン 艦行場	甲100	艦 行 隊 合 隊	送彈機不良	曲り矢修正		
"	合 上	甲187	合 上	曳基機能不良	尾栓体、曳基後桿室、割 曳基突出量2.4=増大		
"	合 上	乙167	合 上	抽 彈 子 不 度	抽 彈 子 孔 部 後 部 斜 面可削		
"	合 上	乙190	合 上	抽 彈 子 不 度	抽 彈 子 孔 部 内 側 可 削		
"	合 上	甲130	合 上	保 夾 子 滑 走 通 路 抵抗ニヨル閉鎖不良	滑 走 匣ノ保 夾 子 通 路 拡大		
"	合 上	甲130	合 上	曳基機能不良	曳基後桿先端部径削ニス 尾栓体、曳基後桿室、割		
"				抽 彈 不 度	抽 彈 子 孔 部 後 部 斜 面可削		

八九式旋回機関銃(特) 現地修理調書 (第五飛行集團)							
日 月	修 理 所 名	銃 番	所 部 隊 名	故 障	処 置	交 換 品	摘 要
11/14	第1飛行隊	2382	第1飛行隊	尾筒底鉄損	新品ト交換	尾筒底鉄	実包ナキヲ射止 セズ
				抽筒子機能不良	新品ト交換	抽筒子 左 右	
				抽筒子バネ機能不良	新品ト交換	抽筒子バネ 左 右	
				活塞鉄部鉄損	新品ト交換	活塞金備 左 右	
				回筒广純ニリ不良	新品ト交換	回筒左 右	
				復坐バネ鉄損	新品ト交換	復坐バネ	
				回筒广純ニリ不良	新品ト交換	回筒子左 右	

八九式固定機関銃 現地修理調査 (第五飛行集團)									
日 月 年	修 所 名	理 名	銃 番 号	所 部 隊 名	故 障	処 置	交 換 部 品	摘 要	
27 4 44	巴 行 場	三 野 修	子 機 力	第三飛行隊	引鉄頭部鉄損	新品ト交換	引鉄		
					碍子前鉄損	新品ト交換	碍子前		
					碍子後鉄損	新品ト交換	碍子後		
					尾栓包底部一部鉄損	新品ト交換	尾栓		
					床尾軸栓曲リ不良	新品ト交換	床尾軸栓		
					上腕二リ機能	新品ト交換	上腕		
					鉤部修正				

0156

別表第十二

水一〇三砲直屬予備品表(案) 甲、乙砲ノ已分アリ			
部	品	名	員数
抽	彈	子準板ばね	一
抽	彈	子下圧ばね	一
撃	茎	管室	三
撃	茎	全備	一
撃	茎	体	一
撃	茎	ばね	四
撃	茎	ばね止	四
撃	茎	ばね受	一
撃	茎	板把	一
撃	茎	板把軸	一
撃	茎	駐鉤	二
部	品	名	員数
撃	茎	駐鉤駐子	二
抽	彈	子全備	一
保	莢	子ばね	二
深	莢	子ばね軸	二
損	桿	受軸	二
復	望	ばね全備	一
門	子	駐栓全備	一
加	速	子軸全備	一
撃	茎	駐鉤ばね	三
溝	付	ナット	三
割	ヒ	ン	三

別表 第十三

水一〇三部隊豫備品表(案)

甲乙砲、区分アリ
二十ニ対シ一ヲ標準トス

部	品	名	頁数	部	品	名	頁数
砲		身	一	溝	付	ナツト小	五
溝	付	ナツト	二	鎖	鉤	軸	二
割	ビ	ン	五	抽	彈	子下圧ばね	二
抽	彈	子準板ばね	二	送	彈	子損彈体	二
碍	子	ばね軸	三	送	彈	子全備	二
碍	子	ばね軸	三	送	彈	子ばね	四
逆	鉤	体	二	ナ	ツ	ト	二
逆	鉤	ばね套	二	床	尾	駐栓全備	二
逆	鉤	ばね套	二	緩	衝	器ばね甲	二
逆	鉤	ばね套駐栓	二	緩	衝	器ばね乙	二
逆	鉤	ばね套駐栓	二	尾	栓	全備(今一即)	二

擊 莖 管 室	五	保 莖 子 ば 収	二
藥 莖 底 抱 ば 収	三	保 莖 子 軸	二
擊 莖 全 備	二	賴 桿 収 軸	二
擊 莖 體	二	復 莖 ば 収 全 備	二
擊 莖 後 桿 ば 収	二	復 莖 ば 収 體	三
擊 莖 後 桿 ば 収 止	一 二	復 莖 ば 収 駐 栓	二
擊 莖 後 桿 ば 収 受 全 備	五	門 子 駐 栓 全 備	二
擊 莖 後 桿 ば 収 受 全 備	二	砲 身 止	三
擊 莖 軋 把 軋	二	門 子 降 桿	二
擊 莖 軋 把 軋	二	門 子 降 桿 鉄	二
擊 莖 駐 鉤 ば 収	二	加 速 子 軸 全 備	二
擊 莖 駐 鉤 ば 収	五	加 速 子 ば 収	二
擊 莖 駐 鉤 駐 子	二	砲 身 復 莖 ば 収	二
抽 彈 子 全 備	二	駐 鉤 桿 駐 栓	三

部	品	名	員数
駐	鉤	桿	二
砲	身	緩衝ばね	二
砲	筒	ばね受	二
部	品	名	員数
駐	鉤	桿結合ばね	二
駐	鉤	桿結合ばね駐栓ピン	三

野戦航空修理廠設備表

修理廠名	所在地	旋盤		フライス盤		研削盤		ボール盤		其 他			摘 要
		六尺	四尺	162	161	外面	平面		車上				
第十九 (第五集團)	ドムアン飛行場 (バンコック)	9	9	3		2		3	1	型削	ハ外研		兵和工員26設備良好 火造調質設備アリ
		プレート 1											
集團 (第三集團)	センハワン飛行場 (昭南島)	6							1		1		工員3名 アセレン若量アリ
集團分廠 (第三集團)	バンドン飛行場 (爪哇)	20	16	1	2	1		5	2	2	2		火造其ノ他設備アリ

仙獸 第四〇二五

過刺馬處理ニ關スル件報告

昭和拾七年七月四日

陸軍大臣 東條英機殿
仙臺師團長 寺倉正三

五月十八日附陸亞密第一六四五號備考第二項ニ依リ血
清製造用トシテ傳染病研究所ニ交付スヘキ豫定
馬一頭腰疼ノタメ廢役處分セシニ付當該交付馬ヲ
四十九頭ニ變更相成度



陸軍